

現代文化研究科 臨床心理学専攻

| | |
|--|---------|
| 保健医療分野に関する理論と支援の展開 [7B1001] | 105 |
| 教育分野に関する理論と支援の展開 [7B1002] | 106 |
| 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) [7B1003] | 107 |
| 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) [7B1004] | 108 |
| 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 [7B1005] | 109 |
| 臨床心理学特論 I [7B1006] | 110 |
| 心理学研究法特論 [7B1007] | 111 |
| 心理統計法特論 [7B1008] | 112 |
| 心理学特別演習 I [7B1009] | 113~126 |
| 臨床心理基礎実習 [7B1023] | 127 |
| 福祉分野に関する理論と支援の展開 [7B1025] | 128 |
| 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 [7B2002] | 129 |
| 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 [7B2003] | 130 |
| 心の健康教育に関する理論と実践 [7B2004] | 131 |
| 心理実践実習A [7B2005] | 132 |
| 臨床心理学特論 II [7B2006] | 133 |
| 臨床心理面接特論 II [7B2007] | 134 |
| 臨床心理査定演習 II [7B2008] | 135 |
| 発達心理学特論 [7B2009] | 136 |
| 心理相談実習A [7B2010] | 137 |
| 心理学特別演習 II [7B2011] | 138~151 |
| 心理実践実習B [7B3001] | 152 |
| 投映法特論 [7B3002] | 153 |
| 心理学特別演習 III [7B3003] | 154~166 |
| 心理実践実習C [7B3016] | 167 |
| 心理実践実習D [7B3017] | 168 |
| 臨床心理実習 II [7B3018] | 169 |
| 心理相談実習B [7B3019] | 170 |
| 心理学特別演習 III [7B3020] | 171 |
| 心理療法特論 [7B3021] | 172 |
| 心理実践実習C [7B3022] | 173 |
| 心理学特別演習 IV [7B4001] | 174~187 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7B1001 | 科目名 | 保健医療分野に関する理論と支援の展開 | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 野末 浩之 | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7G2-6010 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 本科目では、「①保健医療分野に関わる公認心理師の実践」について学びます。精神医学一般についての基本知識を獲得することを目指します。精神医療の歴史や、臨床がどのように行われているかについて理解します。疾患や治療技法について解説し、その基礎に求められるものは何か、について考えます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 |
| 到達目標 | 1. 保健医療分野に関わる公認心理師の実践について、理解し説明できる。 2. 精神医療の歴史を知る 3. 代表的な精神疾患およびその治療を理解する |
| 評価方法 | 参加状況(特に受講態度、集中力を重視します)(50%)、授業中の質問(多くの質問を歓迎します)(30%)、最終日の発表(20%) |
| 備考 | テキストとの一節をレポートして最終日に短時間の発表を行っていただきます。質問等は集中講義期間中いつでもお受けします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法 編集 下山晴彦 中嶋義文 医学書院(3,200円+税) こころ・からだ・くらし 精神障害の理解と地域生活支援(萌文社)野末浩之(1,260円) 生活の中で診る(萌文社)中澤正夫(1,905円+税) |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 精神医療の歴史・福祉の歴史 精神医療の基本:精神症状のみかた、診断とその経過 ICD-10のFカテゴリにそって精神疾患を概説します F0: 症状性を含む器質性精神障害～回想法 F1: 精神作用物質障害による精神および行動の障害 F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害～地域ケア、社会生活技能訓練(SST) F3: 気分(感情)障害～認知療法 F4: 神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害 F5: 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 F6: 成人の人格および行動の障害～精神分析的な精神療法 F7: 知的障害 F8: 心理的発達障害 F9: 小児および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 治療のあり方 薬物療法 精神医療システム 本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。 ・医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、課題発見学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 講義は質疑応答を重視しながら進めます。 ご自身が臨床実習を経験する中で生じた疑問・課題があれば報告してください。 準備学習総時間数:60時間以上 |
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 臨床心理士試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 保健医療分野に関する理論と支援の展開 臨床心理士試験受験資格 選択必修科目 D群 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7B1002 | 科目名 | 教育分野に関する理論と支援の展開 | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 大谷 哲朗 | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7G2-6030 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | <p>本科目では、「①教育分野に関わる公認心理師の実践」について学びます。将来、学校臨床心理士として学校で働くことを想定した場合に、児童生徒が学校生活を適応的に過ごすことができるような心理学的な支援としてどのようなことができるかについて解説します。学校臨床心理学の歴史を基に今日の課題と展望を明らかにし、不登校、いじめ、非行、友人関係といった児童生徒をめぐる諸問題に対して具体的にどのように対応していくのかについて、事例を基にグループ討議を行います。</p> |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻の教育目標である「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」に位置づけられる科目です。 |
| 到達目標 | <p>(1)教育分野に関わる公認心理師の実践について、理解し説明できる。 (2)学校臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけること。 (3)いじめ、不登校、非行、友人関係の問題について実際に対応できる技法を身につけること。</p> |
| 評価方法 | <p>授業における討論への参加(25%) 課題についての考察プレゼンテーション(25%) 基礎的な知識を確認するレポート(50%)</p> |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学校臨床心理学の歴史 2 学校臨床心理学の課題と展望 3 スクールカウンセリングの技法1 一次的支援 4 スクールカウンセリングの技法2 二次的支援 5 スクールカウンセリングの技法3 三次的支援 6 学習に関する支援 7 適応に関する支援1 不登校 8 適応に関する支援2 いじめ 9 適応に関する支援3 非行 10 適応に関する支援4 友人関係 11 教職員に関する支援 12 家族に関する支援 13 スクールカウンセリングの実践例1 14 スクールカウンセリングの実践例2 15 スクールカウンセリングの実践例3 <p>本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。 ・教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | ペア・ワーク、グループ学習、課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>学校や子どもの問題が、毎日のように新聞やテレビ番組で取り上げられています。このような報道に関心を持って接して下さい。授業でも、その時に起こっている問題を取り上げ、議論していきます。 自学自習総時間60時間</p> |
| 免許・資格 | 公認心理師 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師 教育分野に関する理論と支援の展開 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------------------------|------|-------|
| 時間割番号 | 7B1003 | 科目名 | 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 谷渕 真也 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義・演習 |
| ナンバリング | 7G2-6060 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | <p>本科目では、「①公認心理師の実践における心理的アセスメント理論と実践の意義」、「②心理的アセスメントに関する理論と方法」、「③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用」について学びます。また、心理検査を用いた臨床心理査定について実践的な知識と技術を学びます。まず、心理アセスメントの理論的背景、実施方法、支援への応用の方法について講義します。次に、心理検査の実施と支援への応用に関する演習を含めた講義を行います。</p> |
| ディプロマポリシーとの関連 | <p>臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力</p> |
| 到達目標 | <p>(1) 以下の①～③について、理解し説明できる。 ①公認心理師の実践における心理的アセスメント理論と実践の意義 ②心理的アセスメントに関する理論と方法 ③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用 (2) 心理検査を用いた臨床心理査定を行うことができる。</p> |
| 評価方法 | 参加状況(20%)、複数のレポート課題(80%)によって到達目標(1)、(2)の達成度を評価します。 |
| 備考 | 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて資料を配布します。また、参考文献を紹介します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <p>第1回: 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義、臨床心理士の実践における心理的アセスメントの意義1 第2回: 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義、臨床心理士の実践における心理的アセスメントの意義2 第3回: 心理的アセスメントに関する理論-アセスメントの視点とその背景理論1 第4回: 心理的アセスメントに関する理論-アセスメントの視点とその背景理論2 第5回: 心理的アセスメントに関する理論-アセスメントの視点とその背景理論3 第6回: 心理的アセスメントの方法1 第7回: 心理的アセスメントの方法2 第8回: 心理検査(質問紙法)の理論・実施法・支援への応用1 第9回: 心理検査(質問紙法)の理論・実施法・支援への応用2 第10回: 心理検査(描画法)の理論・実施法・支援への応用1 第11回: 心理検査(描画法)の理論・実施法・支援への応用2 第12回: 心理検査(知能検査)の理論・実施法・支援への応用1 第13回: 心理検査(知能検査)の理論・実施法・支援への応用2 第14回: 心理検査(知能検査)の理論・実施法・支援への応用3 第15回: 心理検査(知能検査)の理論・実施法・支援への応用4</p> <p>本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。 ・心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について、その内容を概説することができ、行うことができる。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | ペア・ワーク、グループ学習、調査・実習 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間、合計30時間以上 その回で取り扱うテーマ・検査について文献を読み理解しておいてください。</p> <p>(復習)各回2時間、合計30時間以上 複数回のロールプレイを行い、心理的アセスメントの方法や心理検査の実施法に習熟してください。</p> |
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 臨床心理士 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 心理的アセスメントに関する理論と実践 臨床心理士 必修科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7B1004 | 科目名 | 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践) | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 一円 禎紀 | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7G2-6070 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目では、心理療法やカウンセリングを安全に行うための基本的な事項を理解した上で、「①力動論に基づく心理療法の理論と方法」、「②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法」、「③その他の心理療法の理論と方法」、「④心理に関する相談、助言、指導等への上記①～③の応用」、「⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整」について学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | (1)以下の①～⑤について、理解し説明できる。 ①力動論に基づく心理療法の理論と方法 ②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 ③その他の心理療法の理論と方法 ④心理に関する相談、助言、指導等への上記①～③の応用 ⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整 (2)心理療法並びにカウンセリングの基本的な態度や、面接を安全に行うための要点を理解する。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(40%)や討論での発言(30%)、提出物(30%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心理療法・カウンセリングとは</p> <p>第3回 心理士の基本的態度</p> <p>第4回 面接構造(1)</p> <p>第5回 力動論に基づく心理療法の理論と方法(1)</p> <p>第6回 力動論に基づく心理療法の理論と方法(2)</p> <p>第7回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法(1)</p> <p>第8回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法(1)</p> <p>第9回 遊戯療法の理論と方法(1)</p> <p>第10回 遊戯療法の理論と方法(2)</p> <p>第11回 その他の心理療法の理論と方法</p> <p>第12回 支援を要する者の特性や状況に応じた支援方法の選択・調整</p> <p>第13回 面接開始時の留意点(1)</p> <p>第14回 面接開始時の留意点(2)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ討議 |
| 準備学習(予習・復習) | 各回4時間、合計60時間以上。 指定した資料は必ず読み、あらかじめ質問・意見などを考えておいて授業に臨んでください。それ以外にも、授業の中で紹介する文献は必ず読むようにしてください。 実際に心理面接を行わないうちは基本的な概念の意味や重要性を実感しにくいので、できるだけ多くの事例報告も読むようにしてください。 |
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 臨床心理士試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 心理支援に関する理論と実践 臨床心理士試験受験資格 必修科目 臨床心理面接特論 |

| | | | | | |
|--------|-------------|------|-------------------------------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1005 | 科目名 | 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 三好 真人、谷渕 真也 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7G2-6080 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目では、「①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法」、「②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法」、「③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用」について学びます。まず、家族療法、グループアプローチ、地域援助の理論と方法について講義を行い、それを活用した心理支援の実践について講義・演習を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 |
| 到達目標 | (1)以下の①～③について、理解し説明できる。 ①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法 ②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法 ③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用 (2)家族療法、グループアプローチについて概説できる。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(30%)、複数のレポート課題(70%)によって到達目標(1)、(2)の到達度を評価します。 |
| 備考 | 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて資料を配布します。また、参考文献を紹介します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回: 家族関係に焦点をあてた心理支援の理論と方法1 第2回: 家族関係に焦点をあてた心理支援の理論と方法2 第3回: 家族関係に焦点をあてた心理支援の実践的展開・応用 第4回: グループアプローチの理論と方法1 第5回: グループアプローチの理論と方法2 第6回: グループへの心理支援の実践的展開・応用1 第7回: グループへの心理支援の実践的展開・応用2 第8回: 訪問支援に関する理論と方法 第9回: 訪問支援に関する実践的展開・応用 第10回: 地域社会や組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法1 第11回: 地域社会や組織に働きかける心理学的援助の実践的展開・応用1 第12回: 地域社会や組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法2 第13回: 地域社会や組織に働きかける心理学的援助の実践的展開・応用2 第14回: 災害時等に必要な心理支援に関する理論と方法 第15回: 災害時等に必要な心理支援に関する実践的展開・応用 本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。 ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 ・災害時等に必要な心理に関する支援について説明できる。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、課題発見学習、調査・実習 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間、合計30時間以上 その回で取り扱うテーマについて文献を読み理解しておいてください。 (復習)各回2時間、合計30時間以上 紹介した参考文献や授業資料等を読み、知識の定着を図ってください。また、実践的展開・応用の授業で行った演習を各自で行い、支援・援助の技術を習得してください。 |

| | |
|------------|---|
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1006 | 科目名 | 臨床心理学特論 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 兒玉 憲一 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7G2-6160 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学の実践、すなわち臨床心理士による心理臨床活動の実際について、教育、医療、福祉、産業、司法、開業等の各分野の現状と課題を解説します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 2 心理学の高度な知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | (1) どこでどのような心理臨床活動が行われているか、その概要を理解できる。 (2) 各分野における代表的な心理臨床活動の現状と課題を理解できる。 (3) 各分野で活躍している臨床心理士の情報を得て、臨床実習や進路選択に活用できる。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(50%)およびプレゼンテーション(50%)によって総合的に評価します。 |
| 備考 | 「(1) 学校臨床心理学特論」など他の科目で詳細に解説する分野は簡潔な紹介にとどめます。 (2) 課題(試験やレポート)のフィードバックは授業中やオフィス・アワーに行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示しますが、受講生も積極的に各自の発表担当分野に関する文献を検索講読してください。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 先端医療における心理臨床(1)HIV/AIDS医療 第3回 先端医療における心理臨床(2)がん医療 第4回 学生相談の実際 第5回 犯罪被害者支援の実際 第6回 教育分野における心理臨床(1)学校教育相談 第7回 医療分野における心理臨床(1)精神科専門病院 第8回 医療分野における心理臨床(2)精神科クリニック 第9回 福祉分野における心理臨床(1)児童福祉 第10回 福祉分野における心理臨床(2)高齢者福祉 第11回 産業分野における心理臨床 第12回 司法分野における心理臨床 第13回 開業分野における心理臨床 第14回 各分野間の連携に関する諸問題 第15回 全体的討議 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメントペーパー、ツペアワーク、グループ学習、省察 |
| 準備学習(予習・復習) | (1) 受講生自らがさまざまな分野の心理臨床の現状と課題についてレジュメに整理し、それらを発表・討議していきます。 (2) 実際の事例報告にもあたり、それぞれの理論・技法をより实际的に学習する姿勢が求められます。 (3) 予習復習は、各回4時間、計60時間行ってください。 |
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 臨床心理士試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1007 | 科目名 | 心理学研究法特論 | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 塚脇 涼太 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7G2-6200 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「こころ」という目に見えないものに対して、心理学者たちは、さまざまな科学的手法を用い、調べることで、目に見える研究成果を示してきました。本講義では、これらの研究手法についての理解を深めます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に技法についての知識を習得します。 |
| 到達目標 | 実験法・調査法・観察法・面接法の基本的概念の理解と、それらを実行するためのスキルを身につける。 |
| 評価方法 | 担当回の発表、ディスカッションへの参加度、課題によって、総合的に評価します。 |
| 備考 | 研究法の理解をすることで、心理学がよりわかるようになります。 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 高野陽太郎・岡 隆(編) 有斐閣アルマ http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641122148 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <p>以下の内容について受講生自らがレジュメを作成し、それを発表・討論します。理解度に応じて、内容を入れ替えることもあります。実習等を行う場合もあります。</p> <p>第1回 インタロダクション: 授業概要の説明 第2回 科学と実証 第3回 実験と観察 第4回 独立変数の操作 第5回 従属変数の測定 第6回 剰余変数の統制 第7回 実験法の種類 第8回 心理学に特有な問題 第9回 調査法とは 第10回 観察法とは 第11回 検査法とは 第12回 面接法とは 第13回 研究の立案 第14回 結果の解釈 第15回 心理学における倫理的問題</p> <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 ・発表担当を決め、学生による発表と討議を行う ・教員が授業内で質疑に応じる ・オフィスアワーやメールを活用して授業外の質問に応じる tsukaw@hijiyama-u.ac.jp</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 発表準備や発表で議論、そして、自分自身の研究すべてが予習と復習になります。本授業を通して、心理学を研究することについての知識や技法を身につけてください。予習・復習は各回4時間、計60時間行うこと。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1008 | 科目名 | 心理統計法特論 | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 伊藤 克浩 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7G2-6300 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 心理学研究では、実験・調査によってデータを集積し、それらを統計的に分析することで人間の心のメカニズム、心理・社会的意識などの解明が行われている。この授業では、これから心理学の研究を進めていく上で必要とされるデータ解析の基礎を確認することを目的とする。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」とことに関連しています。特に技法についての知識を習得します。 |
| 到達目標 | ○基本的なデータ解析を行えること。 |
| 評価方法 | 参加状況・課題・理解度等を総合して評価します。 |
| 備考 | 受講者の知識に合わせて、内容を変更します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 インTRODクシヨン 第2回 臨床心理士試験問題の検討1 第3回 臨床心理士試験問題の検討2 第4回 臨床心理士試験問題の検討3 第5回 臨床心理士試験問題の検討4 第6回 臨床心理士試験問題の検討5 第7回 臨床心理士試験問題の検討6 第8回 代表値と散布度 第9回 相関と相関係数 第10回 χ^2 乗検定 第11回 t検定 第12回 分散分析1 第13回 分散分析2 第14回 分散分析3 第15回 理解度チェック |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 担当箇所についての資料を、必ず作成してくること。 その日に行った部分については、自分で説明できるように復習しておくこと。 自分で集めたデータがある人は、そのデータを分析してみるとよいでしょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1009 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 兒玉 憲一 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文の準備及び心理臨床実践に必要な臨床心理学やコミュニティ心理学に関する基礎的な研究指導をゼミ形式で行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 。臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1.臨床心理学およびコミュニティ心理学の基礎理論を理解すること。 2.修士論文の研究テーマを明確にすること。 3.研究テーマに関連する先行研究を数多く読み、研究動向の理解を深めること。 |
| 評価方法 | 参加状況(30%)、発表討議(70%)を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は、臨床心理学専攻の学生を対象としたゼミです。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示しますが、受講生も積極的に各自の研究テーマに関する文献を検索講読してください。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 受講生一人ひとりの関心や学習進度に合わせて、以下の内容を組み合わせて計画的に進めます。 1.基礎理論に関する文献の講読 2.研究テーマ関連の先行研究の講読 3.研究テーマと研究計画の発表と討議 4.心理臨床実践技法のトレーニング |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 文献検索、グループワーク、調査、課題発見学習、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 修士論文及び心理臨床活動に必要な知識と技法を習得するため、関連する学術論文等の文献の講読、ボランティア等の実践活動への参加を積極的に行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1010 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 大谷 哲朗 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 修士論文の執筆に向けた研究計画の立案を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 研究の構想をまとめること。 |
| 評価方法 | 文献研究への取り組み方(1/3), 授業での発表(1/3)とそれに用いた発表資料(1/3)によって評価します。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 研究テーマの設定, 先行研究の検索・収集とそれらについての文献研究, 研究の見通しの検討を繰り返し, 大まかな研究の方向を決めていきます。6回から15回の授業では, 調べ学習に基づいて発表資料を作成し, 発表を行ってもらいます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習, 課題発見学習, 課題解決学習, プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 心理学の研究を深めるためには, 論文を多く読むことが役立ちます。「心理学研究」, 「教育心理学研究」, 「カウンセリング研究」, 「実験社会心理学研究」などの雑誌にできるだけ多く目を通すようにしてください。 自学自習総時間60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1011 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 深田 成子 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 興味のあるテーマを選び、そのテーマに関する本や研究論文などの文献を検索し読みすすめます。先人の研究から、研究方法について考え、その研究から何が立証され、何が課題として残っているかを探り、自分の研究の実験計画の立案に役立てます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学の研究を行う能力を身につける 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 同一テーマの文献を読み進めそれについて考えることで、文献を読みこなす力と課題を見つける力を養い、実験計画を作成する練習をする。同一テーマの文献を読み進めそれについて考えることで、文献を読みこなす力と課題を見つける力を養い、実験計画を作成する練習をします。 |
| 評価方法 | 到達目標と対応させ以下の点に注目して評価します。 1. 授業参加・授業中の態度 20% 2. 文献を読みこなす力が付いたか 40% 3. 課題を見つけられ実験計画が考えられるか 40% |
| 備考 | 1週間に3時間は論文を読む時間を作って何度も読んでください。授業の後1時間は復習に当てましょう。また、質疑応答を行い、疑問を残さず解決していきましょう。 |
| テキスト・教材・経費等 | テーマに即した本や研究論文などを必要に応じて配布します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 1 :イントロダクション 2 :文献検索 3~14: 文献を読み、まとめ、発表し、質疑応答を行い、先人の研究から問題点を検討する 15 :実験計画の立案 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 心理学の基礎知識がないと論文は読めません。心理学研究法、心理統計法、発達心理学などを必要に応じて参考にし、論文を理解することに努めましょう。また、論文は何回も読むことで理解できるので、何度も読むことが大切です。質疑応答の中でしっかり問題解決をしていきましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1012 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉田 弘司 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学において問題になるような心的事象に関連し、認知科学的なアプローチに基づいた高次脳機能に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 心理学・神経科学・情報科学の複合分野である認知科学的な視点に立って、各自が研究を行えるよう、研究テーマを明確化し、必要な情報の収集、技能の習得を行います。 |
| 評価方法 | 発表(研究の問題、方法、結果、考察)の内容、討議への関与の状況、期末課題を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 特になし |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 学生個々のテーマに応じて授業内容を柔軟に変更するため、各回の授業計画はありません。心理物理学や情報処理心理学の手法を応用した心理測定や人の認知機能評価、または、脳波や近赤外分光法による脳血流モニタリングなどの生理指標を用いた高次脳機能の検討を中心に研究を進めます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 特別演習においては、授業時間外での準備や作業、実験実施、データ整理などが重要ですから、積極的に担当者とアポイントを取って進めていくようにしてください。なお、この授業に関する予習・復習の時間は各回あたり2時間、計30時間が基準となっています。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1013 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 伊藤 克浩 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士課程は2年間ですが、計画的に研究を進めることが重要です。最初の段階として研究のテーマを決定する必要があります。この授業は、自分の研究と関連のある研究を探し発表してもらうことで、テーマを決定することが目的です。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」とことに関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | ○研究のテーマを決定すること。 |
| 評価方法 | 発表内容などにより、総合的に評価する。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | 特に使用しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 研究計画発表会準備 第2回 M1研究計画発表会 第3回 研究計画発表会の振り返り 第4回 研究の発表と討論1 第5回 M2第1回修士論文中間発表会 第6回 研究の発表と討論2 第7回 研究の発表と討論3 第8回 研究の発表と討論4 第9回 研究の発表と討論5 第10回 研究の発表と討論6 第11回 研究の発表と討論7 第12回 研究の発表と討論8 第13回 構想発表会準備 第14回 第1回修士論文構想発表会 第15回 構想発表会の振り返り |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 発表のための資料を、あらかじめ用意しておくこと。 発表後は、次に備えて新たな資料を読んでおくこと。 学部時代のテーマを発展させることができるかも知れません。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1014 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 一円 禎紀 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文の研究テーマを決めることが本科目の目的です。各自が関心のあるテーマに関する先行研究をまとめて発表することで、研究の動向や研究方法、残された課題などを理解していきます。そして、その中から自分が何をどのように研究していくのかを見だしていきます。また、発表したり議論したりすることによって、論文を理解する力や自分なりの考えを持ち発表する力を身につけます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 修士論文の研究テーマを決めることが目標です。 |
| 評価方法 | 討論への参加状況(20%)や討論の内容(30%)、発表内容(50%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 各自の発表に対して毎回その場でコメントし、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて配布する資料や発表者の資料を使います。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | まず、自分が関心のある事柄について1人ずつ発表し、テーマの方向性をある程度明確にします。次に、そのテーマに関する文献を集めてまとめたものを発表し、討論します。それを繰り返すことにより、最終的には修士論文の研究テーマを明確にして発表し、討論します。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | 各回4時間, 合計60時間以上。 発表資料は事前に各自で準備します。 研究テーマを明確にするためには関連する論文を集めて読むことが必要になります。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1015 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 松高 由佳 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, ジェンダー・セクシュアリティに関する心理的支援についての基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に, 人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学およびジェンダー・セクシュアリティに関する心理的支援についての基礎理論を理解すること。 2. 修士論文の研究テーマを明確化すること。 3. 研究テーマに関連する先行研究について理解を深めること。 |
| 評価方法 | 発表と討論, 資料内容を通して, 総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は臨床心理学専攻の学生を対象としたゼミです。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画発表会のための発表資料準備 2. M1研究計画発表会 3. 研究計画発表会でのコメントリプライの作成 4. 臨床心理学的基礎理論に関する文献の講読1 5. M2第1回修士論文中間発表会 6. ジェンダー・セクシュアリティについての基礎理論に関する文献の講読2 7. ジェンダー・セクシュアリティについての基礎理論に関する文献の講読3 8. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読1 9. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読2 10. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読3 11. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読4 12. 研究計画の策定と構想発表会の準備1 13. 研究計画の策定と構想発表会の準備2 14. M1第1回修士論文構想発表会 15. 構想発表会のコメントリプライ作成と研究計画修正 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間以上 ゼミや発表会でうけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究計画を策定する (実践活動への参加) 自分の研究テーマやジェンダー・セクシュアリティについて理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, 関連した活動やセミナーなどに積極的に参加する</p> <p>合計 60時間以上</p> |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1016 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 谷渕 真也 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, コミュニティ心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学およびコミュニティ心理学の基礎理論を理解している。 2. 修士論文の研究テーマを明確化している。 3. 研究テーマに関連する先行研究について理解している。 |
| 評価方法 | 参加状況(30%), 発表(50%), 討論(20%)を通して, 総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は臨床心理学専攻の学生を対象としたゼミです。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画発表会のための発表資料準備 2. M1研究計画発表会 3. 研究計画発表会でのコメントリブライの作成 4. コミュニティ心理学の基礎理論に関する文献の講読1 5. M2第1回修士論文中間発表会 6. コミュニティ心理学の基礎理論に関する文献の講読2 7. コミュニティ心理学の基礎理論に関する文献の講読3 8. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読1 9. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読2 10. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読3 11. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読4 12. 研究計画の策定と構想発表会の準備1 13. 研究計画の策定と構想発表会の準備2 14. M1第1回修士論文構想発表会 15. 構想発表会のコメントリブライ作成と研究計画修正 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリブライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間以上, 合計30時間以上 ゼミや発表会でうけたコメントに対してリブライを作成し, コメントを反映した研究計画を策定する</p> <p>(実践活動への参加) 自分の研究テーマやコミュニティ心理学について理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, 地域のボランティア活動などコミュニティ心理学的地域貢献活動に積極的に参加する</p> |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|-----------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7B1017 | 科目名 | 心理学特別演習 I | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 塚脇 涼太 | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学と社会心理学の接点である「臨床社会心理学」を中心としたテーマについての基礎的な知識を身につける。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 1. 臨床社会心理学の基礎的な知識を身につける。 2. 資料をまとめ、発表するためのスキルを磨く。 |
| 評価方法 | 参加状況、発表内容、討論への参加状況によって、総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックする。 |
| テキスト・教材・経費等 | 講読する文献、及び発表者の作成したレジュメを利用します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 臨床社会心理学領域の修士論文の基礎になることを前提にし、先行研究のレビュー、議論等のトレーニングを行い、修士論文の具体的なテーマを形成していきます。具体的には、「研究テーマに関連する先行研究のレビュー→発表に伴う議論」といった一連の過程を繰り返す予定です。発表の際には、受講生の活発な議論を行ってまいります。さらにテーマによっては、予備調査、実験を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 本授業では発表準備(予習)→発表→発表後の指摘を受けて、さらなる発表の準備(復習+予習)→発表という形になります。つまり、発表の準備をするための活動が予習・復習になります。 予習・復習は各回2時間、計30時間行うこと。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1018 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐々木 美保 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学(認知行動療法)に関する研究の基礎を学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学(行動療法・認知行動療法)の基本的な理論を理解することができる 2. 修士論文の研究テーマを明確にすることができる 3. 研究テーマに関する先行研究の動向を把握し、研究の方向性を定めることができる |
| 評価方法 | 発表(研究の問題、方法、結果、考察)の内容(50%)、受講態度(20%)および討議への関与状況(30%)を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は臨床心理学専攻の学生を対象としたゼミです。作成してきたレジュメ(発表資料)に対して毎回その場でコメントを行い、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示をします。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回: 基礎理論に関する文献の講読と発表① 第2回: 基礎理論に関する文献の講読と発表② 第3回: 基礎理論に関する文献の講読と発表③ 第4回: 基礎理論に関する文献の講読と発表④ 第5回: 修論構想発表会 第6回: 研究テーマに関連する先行研究の講読と発表① 第7回: 研究テーマに関連する先行研究の講読と発表② 第8回: 研究テーマに関連する先行研究の講読と発表③ 第9回: 研究テーマに関連する先行研究の講読と発表④ 第10回: 研究テーマに関連する先行研究の講読と発表⑤ 第11回: 研究テーマに関連する先行研究の講読と発表⑥ 第12回: 研究テーマに関連する先行研究の講読と発表⑦ 第13回: 修論構想発表会 第14回: 研究テーマの明確化と研究計画の立案に関する発表と討論① 第15回: 研究テーマの明確化と研究計画の立案に関する発表と討論① |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 発見学習, 問題解決学習, グループディスカッション, 調査学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 研究・実践活動に必要な知識と技術を習得し高めるために、国内外の研究論文を主体的に講読してください。併せて多くの研究・実践活動に積極的に参加し、見識を広めることを期待します。 ゼミの時間以外に、少なくとも一日の内3時間ずつは研究論文のレビューを行い、研究目的が明確になっておく必要があります。 自学自習総時間120時間 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1019 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉儀 瑠衣 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学に関する研究や投映法を用いた研究の基礎を学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は臨床心理学専攻のディプロマポリシーの「4 心理学についての研究を行う能力」と関連しています。 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学および投映法を用いた研究の基礎理論が理解できる。 2. 修士論文の研究テーマを明確化することができる。 3. 研究テーマに関連する先行研究の動向を把握し、理解を深めることができる。 |
| 評価方法 | 参加状況や発表と討論を通して、総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は臨床心理学専攻の学生を対象としたゼミです。 発表資料や課題へのフィードバックは、授業時間とオフィスアワーを用いて行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画発表会のための発表資料準備 2. 研究計画発表会 3. 研究計画発表会の振り返り 4. 投映法研究の基礎理論に関する文献の講読 5. 修士論文中間発表会 6. 研究テーマおよびその関連分野に関する先行研究の発表1 7. 研究テーマおよびその関連分野に関する先行研究の発表2 8. 研究テーマおよびその関連分野に関する先行研究の発表3 9. 研究テーマおよびその関連分野に関する先行研究の発表4 10. 研究テーマおよびその関連分野に関する先行研究の発表5 11. 研究テーマおよびその関連分野に関する先行研究の発表6 12. 研究計画に関する発表1 13. 研究計画に関する発表2 14. 修士論文構想発表会 15. 構想発表会の振り返りと研究計画の修正、課題設定 <p>修士論文の構想について各自資料を作成し、順番に発表していきます。 前期はそれぞれ関心のある先行研究や文献を収集し、レビューをまとめて発表します。これらを通して研究のテーマや目的、方法を明確化していきます。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索、発表・討議、課題発見学習、問題解決学習、グループ学習 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)興味のあるテーマを検討し、日ごろから関連する分野の研究論文や文献を読み、知識を深めるように努めてください。発表資料は事前に準備すること。 (復習)討議を通して得られたコメントや問題点を整理し、研究の遂行や次回の発表に役立ててください。</p> <p>予習・復習総時間:計60時間以上。</p> |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1020 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 神谷 真由美 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, 発達臨床心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学および発達臨床心理学の基礎理論を理解すること。 2. 修士論文の研究テーマを明確化すること。 3. 研究テーマに関連する先行研究について理解を深めること。 |
| 評価方法 | 参加状況(40%) 討論での発言, 質問(30%) 発表資料の内容(30%) |
| 備考 | 本科目は臨床心理学専攻の学生を対象としたゼミです。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて, 適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画発表会のための発表資料準備 2. M1研究計画発表会 3. 研究計画発表会でのコメントリプライの作成 4. 臨床心理学, 発達臨床心理学の基礎理論に関する文献の講読1 5. M2第1回修士論文中間発表会 6. 臨床心理学, 発達臨床心理学の基礎理論に関する文献の講読2 7. 臨床心理学, 発達臨床心理学の基礎理論に関する文献の講読3 8. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読1 9. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読2 10. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読3 11. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読4 12. 研究計画の策定と構想発表会の準備1 13. 研究計画の策定と構想発表会の準備2 14. M1第1回修士論文構想発表会 15. 構想発表会のコメントリプライ作成と研究計画修正 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間以上, 合計30時間以上 ゼミや発表会でつけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究計画を策定する |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1021 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐藤 友哉 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学(主として認知行動療法)に関する最新の研究知見に触れながら、認知行動療法の基礎理論と具体的な方法論、最新の研究動向について学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学(主として認知行動療法)の基礎理論を理解することができる。 2. 臨床心理学(主として認知行動療法)の研究を進める上で方法論を理解することができる。 3. 修士論文の研究テーマを明確に述べることができる。 4. 研究テーマに関する最近の研究動向を把握し、先行研究の問題点を述べるることができる。 |
| 評価方法 | 出席、発表および討論への取り組みを総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は臨床心理学専攻の学生を対象としたゼミです。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回: 認知行動療法に関する研究の文献の発表と理論的背景の解説① 第2回: 認知行動療法に関する研究の文献の発表と理論的背景の解説② 第3回: 認知行動療法に関する研究の文献の発表と理論的背景の解説③ 第4回: 認知行動療法に関する研究の文献の発表と理論的背景の解説④ 第5回: 修士論文中間発表会 第6回: 研究テーマに関連する先行研究の発表および当該テーマに関する議論① 第7回: 研究テーマに関連する先行研究の発表および当該テーマに関する議論② 第8回: 研究テーマに関連する先行研究の発表および当該テーマに関する議論③ 第9回: 研究テーマに関連する先行研究の発表および当該テーマに関する議論④ 第10回: 研究テーマに関連する先行研究の研究動向および方法論のまとめ① 第11回: 研究テーマに関連する先行研究の研究動向および方法論のまとめ② 第12回: 研究テーマに関連する先行研究の研究動向および方法論のまとめ③ 第13回: 修士論文構想発表会の準備 第14回: 修士論文構想発表会 第15回: 構想発表会の振り返りと研究計画の修正 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習, 課題解決学習, プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | ・1回の授業につき、毎回4時間以上の予習・復習をすること(自学自習総時間60時間以上) ・予習:ゼミ内の発表や発表会の資料作成のため、最新の論文の購読、レジュメ作成を行ってください。 ・復習:ゼミや発表会で受けたコメントや答えられなかったことに対するリプライを作成し、次回のゼミで発表してください。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1022 | 科目名 | 心理学特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6250 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, コミュニティ心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学およびコミュニティ心理学の基礎理論を理解すること。 2. 修士論文の研究テーマを明確化すること。 3. 研究テーマに関連する先行研究について理解を深めること。 |
| 評価方法 | 発表(30%)と討論(50%), 出席(20%)を通して, 総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は臨床心理学専攻の学生を対象としたゼミです。 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックする。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画発表会のための発表資料準備 2. M1研究計画発表会 3. 研究計画発表会でのコメントリプライの作成 4. コミュニティ心理学の基礎理論に関する文献の講読1 5. M2第1回修士論文中間発表会 6. コミュニティ心理学の基礎理論に関する文献の講読2 7. コミュニティ心理学の基礎理論に関する文献の講読3 8. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読1 9. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読2 10. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読3 11. ゼミ生の研究テーマおよびその関連分野の先行研究の講読4 12. 研究計画の策定と構想発表会の準備1 13. 研究計画の策定と構想発表会の準備2 14. M1第1回修士論文構想発表会 15. 構想発表会のコメントリプライ作成と研究計画修正 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジューメ作成を行う (復習)各回2時間以上 ゼミや発表会でつけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究計画を策定する</p> <p>予習・復習は各回2時間, 計30時間行うこと。</p> <p>(実践活動への参加) 自分の研究テーマやコミュニティ心理学について理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, コミュニティ心理学的地域貢献活動に積極的に参加する</p> |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|---|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B1023 | 科目名 | 臨床心理基礎実習 | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 神谷 真由美、佐藤 友哉、大谷 哲朗、谷淵 真也、兒玉 憲一、神谷 真由美、佐藤 友哉 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期～後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6140 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 前期には、様々な心理療法の基礎となる基本的応答技法を習得するために、ビデオ教材の視聴とロールプレイによる実習を行う。後期には、ロールプレイによる実習と並行して、臨床心理士である教員の面接や事例検討会に陪席し、体験学習を行う。さらに、試行面接の事前事後指導を行い、実践的な対応を学ぶ。児童相談所等の専門機関の参観も行う。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | 1.基本的応答技法を習得している 2.実践的な対応力を身につけている 3.心理臨床業務の具体的な内容について知識を習得している |
| 評価方法 | 授業での取り組み(50%), 討論への参加状況(30%), レポート(20%)によって評価します。 |
| 備考 | 授業は、毎回2名以上の教員が合同で行います。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスパワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 1回目～6回目: 基本的応答技法の講義とロールプレイ1～6 7回目: 専門機関の施設見学実習 8回目～11回目: 基本的応答技法の講義とロールプレイ7～10 12回目: 専門機関の施設見学実習 13回目～15回目: 基本的応答技法の統合1～3 16回目～17回目: 試行面接のオリエンテーション1～2 18回目～21回目: 試行面接に関する学習1～4 22回目～26回目: 試行面接の検討1～5 27回目～29回目: 初回面接1～3 30回目: 全体の振り返り・まとめ ※16回目・30回目: 授業時間外で教育領域での施設見学実習を実施 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | ペアワーク、グループ学習、施設見学実習、面接実習、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間, 合計30時間以上 その日に学ぶ面接技法について、関連の書籍を読み理解を深める。さらに実際に活用するうえでの疑問点等を明確にしておく 施設参観、実習の前には、その領域や機関について文献を読み、理解を深める (復習)各回2時間, 合計30時間以上 学んだ面接技法について、ロールプレイ等を行い、その技術の活用法に習熟しておく 施設参観、実習後には、その体験について振り返り、その内容をまとめておく |
| 免許・資格 | 臨床心理士 |
| 免許・資格の科目区分 | 臨床心理士 必修科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7B1025 | 科目名 | 福祉分野に関する理論と支援の展開 | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 李木 明德 | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7G2-6020 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目では、「①福祉分野に関わる公認心理師の実践」について学びます。授業では、「障害」という言葉が有する生物的、心理的さらには社会的な意味について正しく理解していくことを第一のねらいと、そもそも「障害」とは何を意味する言葉なのかを考えていきます。そのうえで、障害のある人たちの立場に立った支援のあり方について臨床心理学的視点から考えていきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 |
| 到達目標 | (1)福祉分野に関わる公認心理師の実践について、理解し、説明できる。 (2)「障害」について自分の考えを持ち、自分の言葉で語れるようになる。 (3)障害のある人への臨床心理学的支援について理解し、説明できる。 |
| 評価方法 | 参加状況、授業への参加状況、課題提出によって評価します。 |
| 備考 | 障害児(者)心理学特論 課題やレポートを実施した際にはその都度、返却し解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業では、障害に関わる視聴覚教材を使用します。その内容をもとにディスカッションを行います。必要に応じて、プリントを配布します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1.「障害」という概念 2.ノーマライゼーションについて 3.「障害」と社会 4.合理的配慮について 5.「障害」を理解する視点 6.発達障害という概念について 7.障害の理解と支援のあり方 その1 8.障害の理解と支援のあり方 その2 9.障害の理解と支援のあり方 その3 10.発達障害の理解と支援のあり方 その1 11.発達障害の理解と支援のあり方 その2 12.認知症の理解と支援のあり方 その1 13.認知症の理解と支援のあり方 その2 14.障害のある人のこころの健康と支援のあり方 15.家族理解と支援のあり方 <p>本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。 ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | ディスカッション |
| 準備学習(予習・復習) | 授業では関連する内容の新聞記事などを多く配布します。授業の後にそれらの記事を読み返してみたり、新聞を読んで自分で関連する新聞の記事を探したりして、社会の現実を知るとともに、授業内容の理解を深めてください。 自学自習総時間:60時間 |
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 臨床心理士試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 福祉分野に関する理解と支援の展開 臨床心理士試験受験資格 選択科目必修科目D |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7B2002 | 科目名 | 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 大谷 哲朗 | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7G2-6040 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目では、「①司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践」について学びます。 ①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について講義を行う。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に技法についての知識を習得します。 |
| 到達目標 | (1)司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践について、理解し説明できる。 (2)基本的なデータ解析を行えること。 |
| 評価方法 | 授業中の議論への参加状況1/3 課題プレゼンテーション1/3 学期末のレポート1/3 |
| 備考 | 受講者の知識に合わせて、内容を変更します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1.司法・犯罪分野の制度・法律・職種1 2.司法・犯罪分野の制度・法律・職種2 3.司法・犯罪分野の制度・法律・職種3 4.司法・犯罪分野での活動の倫理1 5.司法・犯罪分野での活動の倫理2 6.各機関における活動1 7.各機関における活動2 8.各機関における活動3 9.犯罪・非行の原因と支援1 10.犯罪・非行の原因と支援2 11.犯罪被害への支援1 12.犯罪被害への支援2 13.家事事件1 14.家事事件2 15.まとめ <p>本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。 ・司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 毎回、予習と復習のための資料・課題を配布する。 自学自習総時間60時間 |
| 免許・資格 | 公認心理師 臨床心理士 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 臨床心理士 選択必修科目 C群 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7B2003 | 科目名 | 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 堀田 裕司 | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7G2-6050 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目では、職業性ストレスモデルなどの産業・労働分野に関する理論や、職場のメンタルヘルス対策などの心理的支援等に関する知識を学ぶとともに、産業領域における心理職として活動する上での基本的姿勢を身につけます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 |
| 到達目標 | 1.産業・労働分野に関わる公認心理師の実践について、理解し説明できる。 2.職場における問題に対する必要な心理に関する支援及びその方法について、理解し説明できる。 |
| 評価方法 | 授業後の小レポート 30% 最終レポート70% |
| 備考 | 提出された課題に関しては、授業の中で解説します。疑問に思ふこと等があれば、質問してください。 (新)産業・労働分野に関する理論と支援の展開 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業中にプリントを配布 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践① 労働関係法規と職場のメンタルヘルス 2. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践② 労働者のストレス状況と職業性ストレスモデル 3. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践③ 職場のメンタルヘルス対策 4. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践④ ストレスチェック制度とその活用 5. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑤ キャリアに関する理論と支援 6. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑥ 職場の人間関係に関する理論 7. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑦ 職場の安全とリスク管理 8. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑧ 産業領域における心理職の活動と倫理 9. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑨ メンタル不調者に対する気づきと対応 10. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑩ 「職場うつ」の理解と支援 11. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑪ 職場復帰支援 12. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑫ アルコール使用障害の理解と支援 13. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑬ 労働現場における発達障害の理解と支援 14. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑭ 自殺予防の取り組みと対応 15. 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践⑮ 職場のポジティブメンタルヘルス <p>本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応する。 ・職場における問題に対する必要な心理に関する支援及びその方法について説明できる。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 講義内容について各自で調べ、概要を理解した上で講義に臨んで下さい。 講義後はしっかりと復習し、講義内容を自分の言葉でまとめて理解するようにしてください。 予習・復習は、合計60時間以上の時間をかけて実施してください。 |
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 |

| | | | | | | |
|--------|--------------|------|-----------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7B2004 | 科目名 | 心の健康教育に関する理論と実践 | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐々木 美保、佐藤 友哉 | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7G2-6090 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 本科目では、「①心の健康教育に関する理論」、「②心の健康教育に関する実践」について学びます。心の健康教育に関する社会のニーズは高く、正しい理論と実践を行うことのできる専門職による知識の普及が必要となります。本講義では、心の健康教育に関する諸理論について理解するとともに、その理論を基に正しい実践が行えるようになることを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 |
| 到達目標 | (1)以下の①, ②について、理解し説明できる。 ①心の健康教育に関する理論 ②心の健康教育に関する実践 (2)心の健康に関する知識を正しく理解し、自身の健康に関連づけて理解し活用することができる。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況、討議への参加とその内容、発表資料やプレゼンテーションによって総合的に評価します。 |
| 備考 | 臨床心理学の理論を「知っていること」と「教えること」は別次元です。したがって、本講義では、理論の教授に留まるのではなく、受講生が互いを心の健康教育の受講者に見立て、模擬講義を行い、各自の発見や気づきを得てもらおう学びを重視します。 |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心の健康教育に関する理論① 1次・2次・3次予防の現状と課題</p> <p>第3回 心の健康教育に関する理論② ストレス理論</p> <p>第4回 心の健康教育に関する理論③ 行動理論</p> <p>第5回 心の健康教育に関する理論④ 認知理論</p> <p>第6回 心の健康教育に関する理論⑤ ソーシャルスキルトレーニング(SST)の理論</p> <p>第7回 心の健康教育に関する理論⑥ 健康行動に関する理論</p> <p>第8回 心の健康教育に関する理論⑦ 教授方法に関する理論とポイント</p> <p>第9回 心の健康教育に関する理論⑧ 学校・企業・医療現場の特徴と実施時のポイント</p> <p>第10回 ストレス理論を用いた心の健康教育の実践</p> <p>第11回 行動理論を用いた心の健康教育の実践</p> <p>第12回 認知理論を用いた心の健康教育の実践</p> <p>第13回 SSTの理論を用いた心の健康教育の実践</p> <p>第14回 健康行動に関する理論を用いた心の健康教育の実践</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。 ・心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供ができる。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 各回の主要テーマについて、各自で関連する論文などを読んで授業に臨むようにしましょう。少なくとも予習に2時間は必要でしょう。また、授業で学んだ内容については、自身の生活に当てはめながら過ごすことで、他者に分かりやすく説明ができるように理解を深めていきましょう。 |
| 免許・資格 | 公認心理師受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師受験資格 心の健康教育に関する理論と実践 |

| | | | | | |
|--------|--------------------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2005 | 科目名 | 心理実践実習 A | 単位数 | 1 |
| 担当者 | 松高 由佳、兒玉 憲一、神谷 真由美 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6100 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目では、大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次に掲げる事項について学びます。「①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ」、「②多職種連携及び地域連携」、「③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解」。 保健医療、福祉、教育の3分野の施設（保健医療2か所、福祉1か所、教育1か所）において、22.5時間見学などによる実習を行います。事前学習として、実習施設の概要を調べ、実習の際のマナーや記録ノートのつけ方などについて学び、事後学習として、学んだこと・感じたことなどの意見交換を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 |
| 到達目標 | (1)以下の①～③に関する知識及び技能を習得している。 ①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ ②多職種連携及び地域連携 ③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解 (2)具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識及び技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。 |
| 評価方法 | 以下の3つの観点から、到達目標の達成度によって総合的に評価します。 (1)事前事後学習の取り組み状況(30%) (2)討論への参加状況(30%) (3)実習記録ノートの内容(40%) なお、次の場合は評価の対象となりません。 (1)理由のない3回以上の欠席 (2)見学に参加していない実習施設が1以上ある (3)理由なく第15回授業の時点で実習記録ノートが1以上未提出 (4)1か所以上の見学実習施設で実習時間の不足などがある場合 |
| 備考 | 本科目を履修するためには、「実習指導マニュアル」に記載された”実習科目履修のための基準”を満たしている必要があります。予習・復習は各回2時間以上、計60時間以上行ってください。 課題へのフィードバックは、授業時間とオフィスアワーに行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 入学時に配布する「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を使用します。 その他、必要に応じて資料を配布します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 本科目は「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標のうち、以下の項目に対応します。 ・公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 ・保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 ・多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。 第1回 オリエンテーション 実習の日程、基本マナー、実習記録ノートの書き方、評価方法などの説明 第2回 荒木脳神経外科(保健医療)、広島西医療センター(保健医療)、西部子ども家庭センター(福祉)、広島大学保健管理センター(教育)の概要や実習に必要な知識などについて調べ学習をした成果を発表 第3回～第7回 荒木脳神経外科の見学(1グループ5名以内)、実習記録ノートの提出、実習で学んだことなどの意見交換と発表 第8回～第9回 広島西医療センターの見学(1グループ10名以内)、実習記録ノートの提出、実習で学んだことなどの意見交換と発表 第10回～第11回 西部子ども家庭センターの見学(1グループ10名以内)、実習記録ノートの提出、実習で学んだことなどの意見交換と発表 第12回～第13回 広島大学保健管理センターの見学(1グループ10名以内)、実習記録ノートの提出、実習で学んだことなどの意見交換と発表 第14回～第15回 4つの実習の優秀な実習記録ノート提出者3名(程度)ずつによる実習を振り返っての発表。意見交換会で、実習を通して得たこと、今後学ばべきことを話し合う なお、見学実習の日程は、見学に行く施設の都合で変更になる場合があります。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 実習前には、必要な文献等を精読してから事前学習に臨むなど準備学習を怠らず、実習後も見学実習で感じた不足する知識や技術についての事後学習に専心してください。また、その成果を記録ノートや発表資料としてまとめてください。計60時間以上。 |

| | |
|------------|--------------|
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師 心理実践実習 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2006 | 科目名 | 臨床心理学特論Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 松高 由佳 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7G2-6170 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学の歴史、および主要な理論についていくつか取り上げ学びます。具体的には、家族療法、集団心理療法などについて取り上げます。さらに、様々な臨床現場における心理臨床の特徴、求められる職務などについても学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | ①臨床心理学の代表的な理論モデルを理解でき、説明できる。 ②様々な臨床現場における心理臨床の特徴について説明できる。 ③心理職を目指すものとしての自己理解を深める。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(30%)、討論への参加(30%)、および発表資料とプレゼンテーション(40%)によって評価します。 |
| 備考 | 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックする。 |
| テキスト・教材・経費等 | 心理臨床家の手引き 第4版(誠信書房) |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | #1:オリエンテーション・担当箇所の設定 #2: 家族療法 #3: 集団心理療法 #4: 対人援助職と自己理解 #5~14 様々な臨床現場での心理臨床 (発表あり) #15: まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習, 発表・討議, 資料検索 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間以上 本科目は、受講生自らが、さまざまな心理療法の理論・技法についてレジュメに整理し、それらを発表・討論していきます。発表担当の回の前には、実際のケースレポート等の文献を講読し、発表資料をまとめます。担当者以外は、関連概念について理解を深めておきましょう。 (復習)各回2時間 臨床心理基礎実習や学外の事例検討の場において、それぞれの理論や技法がどのように用いられているかを考え、実践と理論の統合をはかる。 予習・復習は各回4時間、計60時間は行うこと。 |
| 免許・資格 | 臨床心理士 |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2007 | 科目名 | 臨床心理面接特論Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7G2-6180 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | わが国で実践されている様々な臨床心理面接、精神分析的心理療法や認知行動療法だけでなく、例えば箱庭療法、イメージ療法、自律訓練法、臨床動作法、家族療法、森田療法などの初期、中期、後期の面接過程、終結、中断、フォローアップの理解と対応について、模範的な事例研究論文を通して学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | 1.臨床心理面接の事例研究論文を学会雑誌から検索できる。 2.事例研究論文の書き方を理解できる。 3.各面接過程ごとの対応のポイントが理解できる。 |
| 評価方法 | 授業への参加態度(30%)と発表内容(60%)、出席の状況(10%)を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | この授業では、「臨床心理面接特論Ⅰ」を基に、模範的な事例研究論文の講読を試み、面接の理解を深めます。そのため、発表及び討議に主体的に取り組んでください。 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックする。 |
| テキスト・教材・経費等 | 模範的な事例研究論文のリストを提示しますので、受講生はそこから1本を選び、スライドと配布資料で紹介します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 授業のガイダンス 第2回 初期面接の進め方 第3回 中期、後期面接の進め方 第4回 終結、中断の理解の仕方 第5回 フォローアップ、効果評価 第6回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(1) 第7回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(2) 第8回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(3) 第9回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(4) 第10回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(5) 第11回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(6) 第12回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(7) 第13回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(8) 第14回 模範的な事例研究論文の紹介と討議(9) 第15回 全体的総括討議 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメントペーパー、ペアワーク、グループ学習、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 実際に心理面接を行うまでに、できるだけ多くの事例報告を聴いたり事例研究論文を読むことは大切です。講義で取り上げる模範的な事例研究論文は事前配布しますので、担当以外の論文も必ず熟読したうえで授業に臨んでください。 予習・復習は各回4時間、計60時間行うこと。 |
| 免許・資格 | 臨床心理士試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 必修科目 臨床心理面接特論 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2008 | 科目名 | 臨床心理査定演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 一円 禎紀 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6190 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床現場で最もよく使われる心理検査(投射法)の1つであるロールシャッハテストに焦点を当て、その実施方法や分類方法を学びます。そのため、実際にテストを実施して整理し、授業の中で各自が発表して、みんなで検討することで理解を深めていきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | ロールシャッハテストを適切に実施して、得られた結果を正しく分類・整理できるようになることを目標とします。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(20%)、発表(40%)、報告書(40%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 各回の発表に関してはその場でコメントし、フィードバックします。最後の授業後に提出する報告書に関しては、各自で担当教員の研究室を訪ねてフィードバックを受けてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜資料を配布し、本を貸与します。 片口安史(1987). 改訂 新・心理診断法 金子書房 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <p>第1回 ロールシャッハテスト 分類法(1)</p> <p>第2回 ロールシャッハテスト 分類法(2)</p> <p>第3回 ロールシャッハテスト 実施事例の検討(1)</p> <p>第4回 ロールシャッハテスト 実施事例の検討(2)</p> <p>第5回 ロールシャッハテスト 実施事例の検討(3)</p> <p>第6回 ロールシャッハテスト 実施事例の検討(4)</p> <p>第7回 ロールシャッハテスト 解釈法(1)</p> <p>第8回 ロールシャッハテスト 解釈法(2)</p> <p>第9回 ロールシャッハテスト 分類の練習(1)</p> <p>第10回 ロールシャッハテスト 分類の練習(2)</p> <p>第11回 ロールシャッハテスト 分類の練習(3)</p> <p>第12回 ロールシャッハテスト 分類事例の検討(1)</p> <p>第13回 ロールシャッハテスト 分類事例の検討(2)</p> <p>第14回 ロールシャッハテスト 分類事例の検討(3)</p> <p>第15回 ロールシャッハテスト 分類事例の検討(4)</p> <p>授業のオリエンテーションとロールシャッハテストの施行法の説明は授業開始前に行います。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習, 課題解決学習, プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | <p>【授業開始前】事前に施行法を説明するので、テキストを読み、履修者間で練習します。</p> <p>【第1～2回】練習した自分のデータを分類してみます。</p> <p>【第3～6回】練習した実施場面の記録を整理して、発表資料を作成します。</p> <p>【第7～9回】練習用の実際例を自分で分類してみます。</p> <p>【10～15回】実際にテストを実施し、データを分類して発表資料を作成します。発表後は分類を修正して、最終的には報告書を作成し、提出してもらいます。</p> <p>ロールシャッハテストの施行法・分類法を修得するために、テストに取り組む時間を週に4時間以上は確保してください。</p> |

| | |
|------------|---------------|
| 免許・資格 | 臨床心理士試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 必修科目 臨床心理査定演習 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7B2009 | 科目名 | 発達心理学特論 | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 深田 成子 | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7G2-6210 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 村田幸次著「発達心理学史」【培風館】より選択した発達心理学のテーマについて講義を行い、その知見に関して議論し、発達心理学に関する認識を深める。また、テーマに関する論文を1本づつ読み発表し質疑応答を行うことで、さらにテーマへの知見を深める。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力を身につける 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論について学ぶ」と関連しています。特に、現代の人間関係を中心とする心理的諸問題、そしてそれらの健康的改善について認知心理学の側面から学びます。 |
| 到達目標 | 様々な発達心理学のテーマについて紹介しながら、発達心理学に対する科学的な考え方や視点を養い、さらには生涯発達の物の見方・とらえ方を養います。 |
| 評価方法 | 到達目標と対応させ以下の点に注目して評価します。 1. 授業参加・授業中の態度 20% 2. 理解度チェッククイズの成績 40% 3. 論文発表からみる発達心理学への理解の程度 40% |
| 備考 | 予習・復習は各回4時間以上、計60時間以上行ってください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じ適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 単位の取り方・論文選択 第2回 テストと個人差研究 第3回 ピアジェと認知理論 第4回 ピアジェと認知理論 第5回 臨床・教育研究 第6回 社会化研究 第7回 フロイト理論 第8回 フロイト理論 第9回～第14回 論文発表・論文に関する調べたこと発表+質疑応答 第15回 理解度チェッククイズ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメントペーパー、グループ学習などを行います |
| 準備学習(予習・復習) | 村田幸次著「発達心理学史」【培風館】を教材にします。資料を予め配るので、予習してから授業に臨み、復習もしっかりやってください。特に、論文発表の際には用語等に関してはきちんと理解してから発表を行い、質問された時に答えられるように準備をしてから発表してください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|---|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2010 | 科目名 | 心理相談実習 A | 単位数 | 1 |
| 担当者 | 兒玉 憲一、大谷 哲朗、谷淵 真也、一円 禎紀、佐々木 美保、神谷 真由美、佐藤 友哉、松高 由佳、吉儀 瑠衣、三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6230 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 本科目は、心理面接、心理査定に必要な基本的技法の実践力を身につけるための心理相談実習の一つです。まず、一般の方にクライアントを依頼して試行面接を行い、基本的応答技法を運用する技術を身につけます。次に、心理相談センターにおけるケース担当実習を行い、これまでに学んだ心理的支援および心理査定の知識と技術を臨牀的に活用する実践力を身につけます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 心理面接に必要な基本的応答技法を習得している 2. 心理臨床業務の実践力を身につけている |
| 評価方法 | カンファレンス実習の取り組み状況(40%)、試行面接実習の取り組み状況(40%)、心理相談センター実習の取り組み状況(20%)によって評価します。 |
| 備考 | (1) 本科目を履修する者は「実習指導マニュアル」に記載された“実習科目履修のための基準”を満たしている必要があります。 (2) 試行面接の事前事後指導は臨床心理基礎実習で行います。 (3) 課題(試験やレポート等)は、授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて教員から資料を配布します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 以下の実習を行います。 (1) 臨床心理基礎実習に含まれない時間の心理相談センターでのカンファレンス実習 (2) 試行面接3回法: 一般の人にクライアント役を依頼して試行面接を行います。面接等と実習記録作成等を3回 (3) 試行面接5回法1例目: 一般の人にクライアント役を依頼して試行面接を行います。面接等と実習記録作成等を5回。 (4) 試行面接5回法2例目: 一般の人にクライアント役を依頼して試行面接を行います。面接等と実習記録作成等を5回。 (5) (1)～(3)の実習及びその事後指導を完了した者から、心理相談センターのケース担当実習およびその事前事後指導を行います。 (6) 心理相談セミナーでスタッフとして活動し、地域貢献活動の実習を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | ペア・ワーク、調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習) 作成した実習記録や関連の文献を読み、自分自身の課題の確認や担当ケースの実施計画の立案等の準備を行ってください。 (復習) 実習: 実習記録を作成し、試行面接やケース担当の振り返りを行ってください。 予習・復習は、各回2時間、計30時間行うこと。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2011 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 兒玉 憲一 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文の準備および心理臨床実践に必要な臨床心理学やコミュニティ心理学に関する基礎的な研究指導をゼミ形式で行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1.臨床心理学およびコミュニティ心理学の基礎理論を理解する。 2. 修士論文の研究テーマに関連する先行研究について理解を深める。 3.研究計画を作成し、計画に基づいて調査・実験を実施する。 |
| 評価方法 | 参加状況(30%)、発表討議(70%)を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | (1) 本科目は、授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」を履修した者を対象者としたゼミです。 (2) 課題(試験やレポート等)は、授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示しますが、受講生も積極的に各自の研究テーマに関する文献を検索講読してください。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 臨床心理学特別演習Ⅰで行ったことに加え、調査、実験結果についての報告と先行研究に基づいた討議を行います。具体的には、受講生の関心や研究の進度に応じて、文献講読、発表、討議、技法のトレーニングを組み合わせて行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 文献検索、グループ学習、調査、課題発見学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | (1) 修士論文および心理臨床活動に必要な知識と技能を習得するため、関連する学術論文等の文献の講読、ボランティア等の実践活動への参与を積極的に行ってください。 (2) 予習・復習は、各回2時間、計30時間行うこと。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2012 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 大谷 哲朗 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文の執筆に向けた研究計画の立案を行い、予備研究(実験、調査、観察、面接)を通して、実際に研究を遂行することが可能かどうかを検討します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 研究計画を立て、発表すること。 |
| 評価方法 | 授業での発表と発表資料(1/3)、討論への参加状況(1/3)、研究計画書(1/3)によって評価します。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 臨床心理学特別演習Ⅰに続き、先行研究の検索・収集とそれらについての文献研究、研究の見通しの検討を繰り返し、具体的な研究計画書を作成します。それに基づいて予備的な研究を行い、研究遂行が可能かどうかをより具体的、詳細に検討していきます。15回の授業を通じて、毎回、発表資料を基に発表をしてもらいます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 心理学の研究を深めるためには、論文を多く読むことが役立ちます。「心理学研究」、「教育心理学研究」、「カウンセリング研究」、「実験社会心理学研究」などの雑誌にできるだけ多く目を通すようにしてください。 自学自習総時間60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2013 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 深田 成子 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 研究1のテーマに関連する論文を読み、目的と問題をまとめ、それに基づいて調査用紙を作成し、得られたデータを分析し、結果と考察をまとめ、研究2の目的を明確にしていく。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学の研究を行う能力を身につける 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 実験計画から、それを実施するために必要な調査用紙を作成できるようになり、データを実際に分析することで、分析方法を理解し、分析して得た結果を読み取り、それに基づいて考察します。 |
| 評価方法 | 到達目標と対応させ以下の点に注目して評価します。 1. 授業参加・授業中の態度 20% 2. 実験計画を立て調査用紙が作成できるようになったか 40% 3. データの分析・分析結果の読み取りができるようになったか 40% |
| 備考 | 1週間に2～3時間は予習として論文を読む時間を作り何度も読み理解してください。授業の後2時間は復習に当て、必ず作成資料を修正しましょう。予習・復習は各回2時間、計30時間行うこととします。休暇中にも補習をする予定です。 |
| テキスト・教材・経費等 | 論文作成に必要な本や研究論文などを必要に応じて使用します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 1 : インロダクション 2 : 研究の問題(目的)の発表1 3 : 研究の問題(目的)の発表2 4 : 目的に沿った方法の確認 5 : 調査用紙の作成1 6 : 調査用紙の作成2 7 : 完成した調査用紙を使っての方法の確認(調査人数、実施方法、教示など) 8 : 分析方法の発表1 9 : 分析方法の発表2 10 : 分析方法の確認 11 : 結果の発表1 12 : 結果の発表2 13 : 考察の発表1 14 : 考察の発表2 15 : 研究1のまとめと研究2の計画発表 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 心理学の知識をどれだけ持っているかが調査用紙作成や分析に影響します。時間の許す限り、質問紙作成や分析方法の学習を行い(予習・復習)、心理学の知識を蓄え、自分の研究に関連する論文や本をどんどん読みましょう。予習に必要な時間は、多いほどよいですが、1日1時間程度毎週5時間は論文や本を読んだり、それに関する資料集めや学習を行ってください。なお、研究2の問題と目的の作成は春休みの宿題とします。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2014 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉田 弘司 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 前期の特別演習Ⅰに引き続き、臨床心理学において問題になるような心的事象に関連し、認知科学的なアプローチに基づいた高次脳機能に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 特別演習Ⅰに引き続き、心理科学・神経科学・情報科学の複合分野である認知科学的な視点に立って、各自が研究を行えるよう、必要な情報の収集、技能の習得を行います。 |
| 評価方法 | 発表(研究の問題、方法、結果、考察)の内容、討議への関与の状況、期末課題を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 原則として、授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」を履修した者を対象者とします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 学生個々のテーマに応じて授業内容を柔軟に変更するため、各回の授業計画はありません。 前期の特別演習Ⅰと同様、心理物理学や情報処理心理学の手法を応用した心理測定や人の認知機能評価、または、脳波や近赤外分光法による脳血流モニタリングなどの生理指標を用いた高次脳機能の検討を中心に研究を進めます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 特別演習においては、授業時間外での準備や作業、実験実施、データ整理などが重要ですから、積極的に担当者とアポイントを取って進めていくようにしてください。なお、この授業に関する予習・復習の時間は各回あたり2時間、計30時間が基準となっています。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2015 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 伊藤 克浩 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 研究テーマが決まったら、そのテーマに沿った実験や調査を行う必要があります。修士論文では、複数の実験や調査を行うことが多いので、1年次のうちに1つは実施しておくのが望ましいでしょう。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」とことに関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | ○研究テーマに従って、実験や調査を実施できるように準備すること。 |
| 評価方法 | 発表内容などにより、総合的に評価する。 |
| 備考 | 発表等については、授業時間中にフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に使用しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 研究の発表と討論1 第2回 研究の発表と討論2 第3回 M2第2回修士論文中間発表会 第4回 研究の発表と討論3 第5回 研究の発表と討論4 第6回 研究の発表と討論5 第7回 研究の発表と討論6 第8回 研究の発表と討論7 第9回 研究の発表と討論8 第10回 修士論文構想発表会の準備1 第11回 修士論文構想発表会の準備2 第12回 M1第2回修士論文構想発表会 第13回 構想発表会の振り返り 第14回 研究の発表と討論9 第15回 研究の発表と討論10 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 発表のための資料を、あらかじめ用意しておくこと。 発表後は、次に備えて新たな資料を読んでおくこと。 テーマが決まれば、考え込まないで実験や調査をやってみましょう。 予習・復習は各回2時間、計30時間行うことになっていますが、発表のためには、それ以上に時間が必要となるでしょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2016 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 一円 禎紀 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 修士論文の研究テーマを明確にし、研究計画を立てることが本科目の目的です。特別演習Ⅰでの先行研究のレビューから得られた理解に基づいて、各自が考える研究の目的や方法などをまとめて発表することで、研究計画を明確にしていきます。また、発表や討論をすることによって、自分なりの考えを持ち発表する力を身につけるとともに、様々な研究方法について学びます。可能であれば、予備調査などを行ってデータを集め、研究の方向性ややり方を確かめます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 修士論文の研究計画を明確にすることが目標です。 |
| 評価方法 | 討論への参加状況(20%)や討論の内容(30%)、発表内容(50%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 各自の発表に対して毎回その場でコメントし、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて配布する資料や発表者の資料を使います。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 自分の研究目的や方法について1人ずつ発表し、討論する中で、研究のやり方を検討します。それを繰り返すことにより、研究計画を明確化していきます。予備調査などによってデータが得られたら、まとめて発表することにより、やり方を見直すとともに、データ整理の仕方についても検討します。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | 各回4時間, 合計60時間以上。 発表資料は事前に各自で準備します。 研究計画を明確化するためには、関連論文を読むだけでなく、データの取り方、分析の仕方などの研究法に関する文献も読み、理解しておくことも必要です。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2017 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 松高 由佳 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学、ジェンダー・セクシュアリティに関する心理的支援についての基礎的研究を行います。修士論文の研究テーマを明確にし、研究計画を立てることが本科目の目的です。特別演習Ⅰでの先行研究のレビューから得られた理解に基づいて、各自が考える研究の目的や方法などをまとめて発表することで、研究計画を明確にしていきます。また、発表や討論をすることによって、自分なりの考えを持ち発表する力を身につけるとともに、様々な研究方法について学びます。可能であれば、予備調査などを行ってデータを集め、研究の方向性ややり方を確かめます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学およびジェンダー・セクシュアリティに関する心理的支援についての基礎理論を理解できる。 2. 修士論文の研究計画を明確にできる。 |
| 評価方法 | 討論への参加状況、発表内容、資料の内容をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」を履修した者を対象者としたゼミです。課題に対するフィードバックは授業中に直接行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 自分の研究目的や方法について1人ずつ発表し、討論する中で、研究のやり方を検討します。それを繰り返すことにより、研究計画を明確化していきます。予備調査などによってデータが得られたら、まとめて発表することにより、やり方を見直すとともに、データ整理の仕方についても検討します。得られた成果をもとに、後半は次年度の構想発表会に向けての準備を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索、グループ学習、発表・討議、課題発見学習、調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読、レジュメ作成を行う (復習)各回2時間以上 ゼミや発表でつけたコメントに対してリプライを作成し、コメントを反映した研究計画を策定する (実践活動への参加) 自分の研究テーマやジェンダー・セクシュアリティについて理解を深め、フィールドの実態に即した研究を計画するため、関連した活動やセミナーなどに積極的に参加する |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2018 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 谷渕 真也 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学, コミュニティ心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学およびコミュニティ心理学の基礎理論を理解している。 2. 修士論文の研究テーマに関連する先行研究について理解している。 3. 研究計画を作成し, 計画に基づいて調査・実験を実施できる。 |
| 評価方法 | 参加状況(30%), 発表(50%), 討論(20%)を通して, 総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」を履修した者を対象者としたゼミです。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化1 2. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化2 3. M2第2回修士論文中間発表会 4. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化3 5. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化4 6. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化5 7. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化6 8. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化7 9. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化8 10. 修士論文構想発表会資料作成1 11. 修士論文構想発表会資料作成2 12. M1第2回修士論文構想発表会 13. 構想発表会のコメントリプライの作成 14. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化9 15. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミや発表会でうけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究計画を策定する</p> <p>(実践活動への参加) 自分の研究テーマやコミュニティ心理学について理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, 地域のボランティア活動などコミュニティ心理学的地域貢献活動に積極的に参加する</p> |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2019 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 塚脇 涼太 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学特別演習Ⅰに続き、「臨床社会心理学」を中心としたテーマについての基礎的な知識の理解をすすめる。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 1. 修士論文を執筆するための具体的な研究テーマを形成する。 2. 資料をまとめ、発表するためのスキルを磨く。 |
| 評価方法 | 参加状況、発表内容、討論への参加状況によって、総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックする。 |
| テキスト・教材・経費等 | 講読する文献、及び発表者の作成したレジユメを利用します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 先行研究のレビュー、議論等のトレーニングを行い、修士論文の具体的なテーマを形成していきます。具体的には、「研究テーマに関連する先行研究のレビュー→研究計画の発表→発表に伴う議論」といった一連の過程を繰り返し行う予定です。発表の際には、受講生の活発な議論を行ってもらいます。さらにテーマによっては、予備調査、実験を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 本授業では発表準備(予習)→発表→発表後の指摘を受けて、さらなる発表の準備(復習+予習)→発表という形になります。つまり、発表の準備をするための活動が予習・復習になります。 予習・復習は各回2時間、計30時間行うこと。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7B2020 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐々木 美保 | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学(行動療法・認知行動療法)に関する研究の基礎を学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学(行動療法・認知行動療法)の基本的な理論を理解することができる 2. 修士論文の研究テーマに関連する先行研究の動向を把握し、先行研究の問題点を明らかにすることができる 3. 研究計画を立案し、それに基づいた調査・実験を遂行することができる |
| 評価方法 | 発表(研究の問題、方法、結果、考察)の内容(50%)、受講態度(20%)および討議への関与状況(30%)を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」を履修した学生を対象としたゼミです。作成してきたレジュメ(発表資料)に対して毎回その場でコメントを行い、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示をします。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 臨床心理学特別演習Ⅰでの取り組みに加えて、調査・実験を実施し、その結果についての報告と討論を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 発見学習、問題解決学習、グループディスカッション、調査学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 研究・実践活動に必要な知識と技術を習得し高めるために、国内外の研究論文を主体的に講読してください。併せて多くの研究・実践活動に積極的に参加し、見識を広めることを期待します。また、発表時には懸案点を明確にして臨んでください。 ゼミの時間以外に、少なくとも一日の内4時間は研究論文のレビューを行い、研究目的に沿った研究計画を立てられるようになっていく必要があります。 自学自習総時間150時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2021 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉儀 瑠衣 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学に関する研究や投影法を用いた研究の基礎を学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は臨床心理学専攻のディプロマポリシーの「4 心理学についての研究を行う能力」と関連しています。 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学および投影法を用いた研究の基礎理論が理解できる。 2. 修士論文の研究テーマに関連する先行研究の動向を把握し、先行研究の問題点を明らかにすることができる。 3. 研究計画を立案することができる。 |
| 評価方法 | 参加状況、発表と討論を通して、総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」を履修した者を対象者としたゼミです。 発表資料や課題へのフィードバックは、授業時間とオフィスアワーを用いて行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の経過報告と討議1 2. 研究の経過報告と討議2 3. 修士論文中間発表会 4. 研究の経過報告と討議3 5. 研究の経過報告と討議4 6. 研究の経過報告と討議5 7. 研究の経過報告と討議6 8. 研究の経過報告と討議7 9. 研究の経過報告と討議8 10. 修士論文構想発表会の資料作成1 11. 修士論文構想発表会の資料作成2 12. 修士論文構想発表会 13. 構想発表会の振り返り 14. 研究の経過報告と討議9 15. 研究の経過報告と討議10 <p>「心理学特別演習Ⅰ」に引き続き、各自修士論文の構想について資料を作成し、発表していきます。 研究テーマに関連した先行研究の収集、文献研究に加え、後期は調査・実験を行い、そこで得られた結果の報告と討議を行います。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実験、発表・討議、課題発見学習、問題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)発表資料作成のために必要な研究論文や文献を講読し、レジュメを作成してください。 (復習)討議を通して得られたコメントや問題点を整理し、それを基に研究の遂行や次回の発表の準備をしてください。具体的には必要な資料の収集、研究計画の立案、調査・実験の実施準備など。</p> <p>予習・復習総時間:計60時間以上。</p> |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2022 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 神谷 真由美 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, 発達臨床心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学および発達臨床心理学の基礎理論を理解すること。 2. 修士論文の研究テーマに関連する先行研究について理解を深めること。 3. 研究計画を作成し, 計画に基づいて調査・実験を実施すること。 |
| 評価方法 | 参加状況(40%) 討論での発言, 態度(30%) 発表内容(30%) |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「心理学特別演習Ⅰ」を履修した者を対象者としたゼミです。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて, 適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化1 2. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化2 3. M2第2回修士論文中間発表会 4. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化3 5. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化4 6. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化5 7. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化6 8. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化7 9. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化8 10. 修士論文構想発表会資料作成1 11. 修士論文構想発表会資料作成2 12. M1第2回修士論文構想発表会 13. 構想発表会のコメントリプライの作成 14. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化9 15. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュメ作成を行う (復習)各回2時間以上, 合計30時間以上 ゼミや発表会でつけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究計画を策定する |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2023 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐藤 友哉 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学(主として認知行動療法)に関する研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学(主として認知行動療法)の研究および方法論を理解し、実践することができる。 2. 研究テーマに関連する先行研究の動向を把握し、先行研究の問題点を説明することができる。 3. 先行研究の問題点を解決するための研究計画を立案し、調査・実験を実施することができる。 |
| 評価方法 | 出席、発表および討論への取り組みを総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「心理学特別演習Ⅰ」を履修した学生を対象としたゼミです。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示をします。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回: 研究テーマに関連する先行研究の問題点の整理① 第2回: 研究テーマに関連する先行研究の問題点の整理② 第3回: 修士論文中間発表会 第4回: 研究テーマの研究動向をふまえた研究計画の立案① 第5回: 研究テーマの研究動向をふまえた研究計画の立案② 第6回: 研究テーマの研究動向をふまえた研究計画の立案③ 第7回: 研究テーマの研究動向をふまえた研究計画と具体的方法の構築① 第8回: 研究テーマの研究動向をふまえた研究計画と具体的方法の構築② 第9回: 研究テーマの研究動向をふまえた研究計画と具体的方法の構築③ 第10回: 研究を進める上での研究倫理についての解説① 第11回: 研究を進める上での研究倫理についての解説② 第12回: 修士論文構想発表会の準備 第13回: 修論構想発表会 第14回: 構想発表会の振り返りと研究計画の修正 第15回: 研究計画における予備的研究(予備実験等)の実施 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習, 課題解決学習, プレゼンテーション, 調査・実習 |
| 準備学習(予習・復習) | ・1回の授業につき、毎回4時間以上の予習・復習をすること(自学自習総時間60時間以上) ・予習: ゼミ内での発表や発表会の資料作成のため、最新の論文の購読, レジューメ作成を行ってください。 ・復習: ゼミや発表会で受けたコメントや答えられなかったことに対するリプライを作成し、次回のゼミで発表してください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B2024 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6260 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, コミュニティ心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 臨床心理学およびコミュニティ心理学の基礎理論を理解すること。 2. 修士論文の研究テーマに関連する先行研究について理解を深めること。 3. 研究計画を作成し, 計画に基づいて調査・実験を実施すること。 |
| 評価方法 | 発表(30%)と討論(30%), 出席(40%)を通して, 総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」を履修した者を対象者としたゼミです。 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックする。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化1 2. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化2 3. M2第2回修士論文中間発表会 4. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化3 5. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化4 6. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化5 7. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化6 8. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化7 9. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化8 10. 修士論文構想発表会資料作成1 11. 修士論文構想発表会資料作成2 12. M1第2回修士論文構想発表会 13. 構想発表会のコメントリプライの作成 14. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化9 15. 修士論文のテーマに関連する文献の講読と研究方法の具体化10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間以上 ゼミ内の発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間以上 ゼミや発表会でうけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究計画を策定する</p> <p>予習・復習は各回2時間, 計30時間行うこと。</p> <p>(実践活動への参加) 自分の研究テーマやコミュニティ心理学について理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, 地域の当事者活動などコミュニティ心理学的地域貢献活動に積極的に参加する</p> |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-------------------|------|---------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3001 | 科目名 | 心理実践実習B | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉儀 瑠衣、一円 禎紀、小林 丈真 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6110 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | <p>本科目では、大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次に掲げるような、心理に関する支援を要する者等に関する事項について学びます。「①コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等に関する知識及び技能」「②チームアプローチ」「③多職種連携及び地域連携」「④公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解」。</p> <p>学外の精神科専門病院において事前事後指導を含めて90時間の実習を行います。実習では、患者・利用者とのかわりの中で精神科疾患について体験的に学び、実習担当教員及び実習指導者による指導を受けます。</p> |
| ディプロマポリシーとの関連 | <p>臨床心理学専攻のディプロマポリシー</p> <p>1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力</p> |
| 到達目標 | <p>(1)以下の①～④に関する知識及び技能を修得している。</p> <p>①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能</p> <p>②心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ</p> <p>③多職種連携及び地域連携</p> <p>④公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p> <p>(2)具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識及び技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。</p> |
| 評価方法 | <p>以下の3つの観点から、到達目標の達成度によって評価します。</p> <p>事前事後指導学習への取り組み(30%)、討論への参加状況(20%)、実習記録ファイルの内容(50%)</p> <p>なお、次の場合は評価の対象となりません。</p> <p>(1)理由・連絡のない欠席、(2)理由のない必要書類の未提出、(3)実習時間数・事前事後指導時間数の不足、(4)「心理実践実習の手引き」の記載に則った実習中止</p> |
| 備考 | <p>課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。</p> |
| テキスト・教材・経費等 | <p>「心理実践実習の手引き」及び「実習記録ファイル」を配布、使用します。</p> <p>その他、必要に応じて資料を配付します。</p> |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <p>1. 精神科病院における見学等の実習(1日9時間、5日間、計45時間)は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科病院の病棟や各種活動に5日間(1日9時間)参加し実習を行う。 ・実習日時や時間数を「時間記録簿」に記入する。 ・実習記録に実習の振り返りを記入する。 <p>2. 事前事後指導(1回3時間、15回、計45時間)は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設や精神疾患、精神科医療等に関する調べ学習を行い、発表して実習生同士で共有するとともに担当教員の指導を受ける。 ・実習後には、実習報告書を作成して実習内容を振り返り、実習生同士で共有するとともに担当教員の指導を受ける。 ・事前事後指導の実施日時や時間数を「時間記録簿」に記入する。 <p>作成した資料や時間記録簿は毎回「実習記録ファイル」に保存します。</p> <p>詳細は「心理実践実習の手引き」を参照してください。</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | <p>調査・実習、グループ学習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察</p> |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)実習施設について調べ、精神科における心理支援に関する文献を読んでください。それらをふまえて、実習での具体的な自己目標を設定してください。</p> <p>(復習)実習を振り返り、目標達成に対する自己評価を行ってください。</p> <p>計60時間以上。</p> |

| | |
|------------|-------------|
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 心理実践実習 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3002 | 科目名 | 投映法特論 | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 岡野 泰子 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7G2-6220 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | この授業では、主に、ロールシャッハテストの解釈法の一つである包括システムによるロールシャッハテストの施行法とスコアリング・解釈法を、継起分析からの力動的理解を加えて事例をもとに学びます。既に学んでいる片口法の理解と異なる解釈法を学ぶ中で、ロールシャッハテストを含む投映法の理解を深め、心理臨床家としての基本的態度や心理査定の意味を再度確認し、学修します。最後に所見にまとめる過程も体験します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 包括システムによるロールシャッハテストの施行法とスコアリング・解釈システムを学び、主な数量的解釈ができるようになる。 2. 心理力動論の視点から主な力動的解釈と査定ができるようになる。 3. 1・2を踏まえ、ロールシャッハテスト所見が書けるようになる。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況も含めた授業への関わりの度合い(70%)、小テスト・レポート等(30%) |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | ●ロールシャッハ・テスト-包括システムの基礎と解釈の原理, J.E.エクスマー, 2014, 金剛出版. ●新版・精神力動論, 小比木・馬場, 1989, 金子書房. ●ロールシャッハテストの所見の書き方, 加藤志ほ子他, 2016, 岩崎学術出版. |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 1回 オリエンテーション:授業計画並びに講義内容の説明 2回 施行法 3回 コーディング① 4回 コーディング② 5回 スコアリングと構造一覧表 6回 コーディング・スコアリング・構造一覧表の作成① 7回 コーディング・スコアリング・構造一覧表の作成② 8回 コーディング・スコアリング・構造一覧表の作成③ 9回 クラスタ解釈① 10回 クラスタ解釈② 11回 クラスタ解釈③ 12回 心理力動論からの解釈と査定① 13回 心理力動論からの解釈と査定② 14回 心理アセスメントの視点と所見の書き方① 15回 心理アセスメントの視点と所見の書き方② |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 1年次に、片口法のスコアリングと数量分析を習得されたと思います。本講義では包括システムのスコアリングと数量分析を学修していきます。片口法と共通する部分も多くありますので、復習しておきましょう。ロールシャッハテストの複数の解釈法を学ぶことで、スコアの示す意味をより深く学ぶことができると思います。また、包括システムでは継起分析を行いませんが、精神疾患の力動的な査定方法として継起分析の学修も取り入れます。皆さんの積極的な発言を期待しています。 総時間数60時間以上。 |
| 免許・資格 | 臨床心理士試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 臨床心理士試験受験資格 選択必修科目E群 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3003 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 兒玉 憲一 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文の準備および心理臨床実践に必要な臨床心理学やコミュニティ心理学に関する基礎的な研究指導をゼミ形式で行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 修士論文の研究計画を作成し、計画に基づいて調査・実験を実施する。 2. 調査・実験の成果をまとめ、報告する。 |
| 評価方法 | 参加状況(30%)と発表討議(70%)を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は、授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」および「臨床心理学特別演習Ⅱ」を履修した者を対象としたゼミです。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示しますが、受講生も積極的に各自の研究テーマに関する文献を検索講読してください。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 臨床心理学特別演習Ⅰ、Ⅱで行ったことに加え、調査、実験結果についての報告と先行研究に基づいた討議を行います。 具体的には、受講生の関心や研究の進度に応じて、文献講読、発表、討議、修士論文の添削指導を組み合わせで行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 文献検索、グループ学習、調査、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 修士論文および心理臨床活動に必要な知識と技能を習得するため、関連する学術論文等の文献の講読、ボランティア等の実践活動への参加を積極的に行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3004 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 大谷 哲朗 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 先に行った予備的な研究を基に、修士論文の執筆に向けた研究が適切に遂行されているかどうかの検討を重ねていきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 実験、調査、観察等の具体的な計画を立て、遂行すること。 |
| 評価方法 | 研究への取り組み方(1/3)、授業での発表(1/3)とそれに用いた発表資料(1/3)を総合して評価します。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 研究方法、研究協力者の選定、実験・調査等の進め方、得られたデータの処理法について検討を重ねていくと共に、論文の書き方について演習を行います。15回の授業を通じて、毎回、発表資料を基に発表をしてもらいます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 心理学の研究を深めるためには、論文を多く読むことが役立ちます。「心理学研究」、「教育心理学研究」、「カウンセリング研究」、「実験社会心理学研究」などの雑誌にできるだけ多く目を通すようにしてください。 自学自習総時間60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3005 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 深田 成子 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | データの分析方法、分析したデータのまとめかたについて学び、研究のまとめ方の練習をし、得られた研究結果の考察の仕方について学びます。また、それを踏まえたさらなる研究計画の立て方や、研究計画を立てる際の注意事項等について学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学の研究を行う能力を身につける 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | データに対して適切な分析ができ、それをきちんと結果に表すことができるようになってください。研究Ⅰの結果・考察から、つづく研究Ⅱの計画をたてることができるようになってほしいです。 |
| 評価方法 | 到達目標と対応させ以下の点に注目して評価します。 1. 授業参加・授業中の態度 20% 2. データに対して適切な分析ができるか 40% 3. 実施した分析結果を正しく読み取り文章化ができるか 40% |
| 備考 | 1週間に2～3時間は論文を読む時間を作ってください。心理学の統計や研究法の知識などを学ぶ時間も1週間に2時間ほどは作ってください。 |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1 :イントロダクション 2～5:調査結果の分析 6～10:分析した結果を表記し、考察を行う 11～15:第2研究の研究計画 水曜日の午前中(1年生と合同)に、2年生の構想発表会と1年生の構想発表会を行います。その日程は、4月オリエンテーションで知らせます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習、調査、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 心理学の知識をどれだけ持っているかが調査用紙作成や分析に影響します。時間の許す限り、心理学の知識を蓄え、自分の研究に関連する論文を読みましょう。毎週4時間程度は予習、30分から1時間は復習をしてください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3006 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉田 弘司 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学において問題になるような心的事象に関連し、認知科学的なアプローチに基づいた高次脳機能に関する研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 心理科学・神経科学・情報科学の複合分野である認知科学的な視点から研究を行います。 |
| 評価方法 | 発表(研究の問題、方法、結果、考察)の内容、討議への関与の状況、期末課題を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 原則として、授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」および「臨床心理学特別演習Ⅱ」を履修した者を対象者とします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 学生個々のテーマに応じて授業内容を柔軟に変更するため、各回の授業計画はありません。 心理物理学や情報処理心理学の手法を応用した心理測定や人の認知機能評価、または、脳波や近赤外分光法などの生理指標を用いた高次脳機能の検討を中心に研究を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 特別演習においては、授業時間外での準備や作業、実験実施、データ整理などが重要ですから、積極的に担当者とアポイントを取って進めていくようにしてください。なお、この授業に関する予習・復習の時間は各回あたり2時間、計30時間が基準となっています。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3007 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 伊藤 克浩 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 1年次に実施した実験や調査の結果に従って、更に実験や調査を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | ○論文のテーマに従って、実験や調査を実施すること。 |
| 評価方法 | 総合的に評価する。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | 特に使用しません。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 研究の発表と討論1 第2回 M1研究計画発表会 第3回 研究の発表と討論2 第4回 研究の発表と討論3 第5回 M2第1回修士論文中間発表会 第6回 中間発表会の振り返り 第7回 研究の発表と討論4 第8回 研究の発表と討論5 第9回 研究の発表と討論6 第10回 研究の発表と討論7 第11回 研究の発表と討論8 第12回 研究の発表と討論9 第13回 研究の発表と討論10 第14回 M1第1回修士論文構想発表会 第15回 研究の発表と討論11 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 発表のための資料を、あらかじめ用意しておくこと。 発表後は、次に備えて新たな資料を読んでおくこと。 集めたデータは、仮説に従って分析を進めましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3008 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 一円 禎紀 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文の研究計画を遂行し、必要なデータを集めることが本科目の目的です。各自が特別演習Ⅱで決めた方法に従って調査などを行い、得られた結果を発表して討論することで、やり方を見直したり分析の仕方を明確にしたりします。仮説を検証し、適切な考察を行うために、得られたデータをどのように処理していけばよいのかを学んでいきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 修士論文に必要なデータを得ること、データのまとめ方、分析の仕方を学んで適切な考察を行うまでの見通しを立てることが目標です。 |
| 評価方法 | 討論への参加状況(20%)や討論の内容(30%)、発表内容(50%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 各自の発表に対して毎回その場でコメントし、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて配布する資料や発表者の資料を使います。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 自分が行った調査などの結果を1人ずつ発表し、討論する中で、方法をもう一度見直し、必要な場合は再度調査などを行います。また、研究目的に合う適切な考察を行うために、得られたデータをどのように分析したらよいかを検討し、論文完成までの見通しが立つようになっていきます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | 各回4時間, 合計60時間以上。 発表資料は事前に各自で準備します。 データ収集や分析なども各自で行いますが、あらかじめ計画したデータのまとめ方、分析の仕方について、授業での討論に基づいて再検討しながら進める必要があります。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3009 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 松高 由佳 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文の研究計画を遂行し、必要なデータを集めることが本科目の目的です。各自が特別演習Ⅱで決めた方法に従って調査などを行い、得られた結果を発表して討論することで、やり方を見直したり分析の仕方を明確にしたりします。仮説を検証し、適切な考察を行うために、得られたデータをどのように処理していけばよいのかを学んでいきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 修士論文に必要なデータを得ること、データのまとめ方、分析の仕方を学んで適切な考察を行うまでの見通しを立てることが目標です。 |
| 評価方法 | 討論への参加状況)、発表内容、資料の内容をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 各自の発表に対して毎回その場でコメントし、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて配布する資料や発表者の資料を使います。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 自分が行った調査などの結果を1人ずつ発表し、討論する中で、方法をもう一度見直し、必要な場合は再度調査などを行います。また、研究目的に合う適切な考察を行うために、得られたデータをどのように分析したらよいかを検討し、論文完成までの見通しが立つようにしていきます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索、グループ学習、発表・討議、課題発見学習、調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | 発表資料は事前に各自で準備します。 データ収集や分析なども各自で行いますが、あらかじめ計画したデータのまとめ方、分析の仕方について、授業での討論に基づいて再検討しながら進める必要があります。 発表に基づき、教員から指示があった内容について事後学習で取り組んでください。 そのため、修士論文に取り組む時間(予習・復習)を週に4時間以上は確保してください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3010 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 谷渕 真也 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, コミュニティ心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 研究計画を作成し, 計画に基づいて調査・実験を実施できる。 2. 調査・実験の成果をまとめ, 報告できる。 |
| 評価方法 | 参加状況(30%), 発表(50%), 討論(20%)を通して, 総合的に評価します |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」および「臨床心理学特別演習Ⅱ」を履修した者を対象としたゼミです。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究方法の検討と実施1 2. M1研究計画発表会 3. 研究方法の検討と実施2 4. 中間発表会準備 5. M2第1回修士論文中間発表会 6. 中間発表会のコメントリプライの作成と研究計画・方法の修正 7. 研究方法の検討と実施3 8. 研究方法の検討と実施4 9. 研究方法の検討と実施5 10. 研究方法の検討と実施6 11. 研究方法の検討と実施7 12. 研究方法の検討と実施8 13. 研究方法の検討と実施9 14. M1第1回修士論文構想発表会 15. 研究方法の検討と実施10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミや発表会でうけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究計画, 方法を立案し, 実行する</p> <p>(実践活動への参加) 自分の研究テーマやコミュニティ心理学について理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, 地域のボランティア活動などコミュニティ心理学的地域貢献活動に積極的に参加する</p> |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3011 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 塚脇 涼太 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「臨床社会心理学」領域の修士論文執筆、発表に向けての指導を行う。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 1. 修士論文の具体的なテーマを形成する。 2. 調査、実験実施のスキルを身につける。 |
| 評価方法 | 参加状況、発表内容、討論への参加状況によって、総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックする。 |
| テキスト・教材・経費等 | 講読する文献、及び発表者の作成したレジュメを利用します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 臨床心理学特別演習Ⅰ、Ⅱで行ったことに加え、研究テーマについての調査、実験等を開始します。また、それら調査、実験結果についての報告を行います。調査準備、実験準備のために時間外指導を行う場合があります。さらに、テーマによっては分析、ならびに報告書の作成等を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 本授業では発表準備(予習)→発表→発表後の指摘を受けて、さらなる発表の準備(復習+予習)→発表という形になります。つまり、発表の準備をするための活動が予習・復習になります。 予習・復習は各回2時間、計30時間行うこと。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3012 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉儀 瑠衣 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学に関する研究や投映法を用いた研究の基礎を学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は臨床心理学専攻のディプロマポリシーの「4 心理学についての研究を行う能力」と関連しています。 |
| 到達目標 | 1. 研究計画を作成し、その計画に基づいて調査・実験を行うことができる。 2. 調査・実験の成果をまとめ、報告することができる。 |
| 評価方法 | 発表と討論を通して、総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「心理学特別演習Ⅰ」および「心理学特別演習Ⅱ」を履修した者を対象者としたゼミです。発表資料や課題へのフィードバックは、授業時間とオフィスアワーを用いて行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 心理学特別演習Ⅰ・Ⅱでの取り組みに加えて、研究テーマについての調査・実験を行います。また、調査・実験で得られた結果の報告と討議を行います。 テーマによっては、データの分析や報告書の作成を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実験、発表・討議、課題発見学習、問題解決学習、グループ学習 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)発表資料作成のために必要な研究論文や文献を講読し、レジュメを作成してください。 (復習)討議を通して得られたコメントや問題点を整理し、それを基に研究の遂行や次回の発表の準備をしてください。具体的には必要な資料の収集、研究計画の修正・立案、調査・実験の実施など。 予習・復習総時間:計60時間以上。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3013 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 神谷 真由美 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学，発達臨床心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 研究計画を作成し，計画に基づいて調査・実験を実施すること。 2. 調査・実験の成果をまとめ，報告すること。 |
| 評価方法 | 参加状況(40%) 討論での発言，態度(30%) 発表内容(30%) |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「心理学特別演習Ⅰ」および「心理学特別演習Ⅱ」を履修した者を対象者としたゼミです。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究方法の検討と実施1 2. M1研究計画発表会 3. 研究方法の検討と実施2 4. 中間発表会準備 5. M2第1回修士論文中間発表会 6. 中間発表会のコメントリプライの作成と研究計画・方法の修正 7. 研究方法の検討と実施3 8. 研究方法の検討と実施4 9. 研究方法の検討と実施5 10. 研究方法の検討と実施6 11. 研究方法の検討と実施7 12. 研究方法の検討と実施8 13. 研究方法の検討と実施9 14. M1第1回修士論文構想発表会 15. 研究方法の検討と実施10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため，積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー，メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索，グループ学習，発表・討議，課題発見学習，調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間，合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読，レジュメ作成を行う (復習)各回2時間，合計30時間以上 ゼミや発表会でつけたコメントに対してリプライを作成し，コメントを反映した研究計画，方法を立案し，実行する |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3014 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐藤 友哉 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学(主として認知行動療法)に関する研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 先行研究の問題点を解決するための研究計画を立案し, 調査・実験を実施することができる。 2. 調査・実験の成果をまとめ, 報告することができる。 |
| 評価方法 | 発表と討論の取り組みを総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「心理学特別演習Ⅰ」と「心理学特別演習Ⅱ」を履修した学生を対象としたゼミです。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示をします。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 臨床心理学特別演習Ⅰ・Ⅱでの取り組みに加えて, データ解析や研究結果の解釈についての報告と討論を行います。また, 研究論文の執筆指導もあわせて行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習, 課題解決学習, プレゼンテーション, 調査・実習 |
| 準備学習(予習・復習) | <ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業につき, 毎回4時間以上の予習・復習をすること(自学自習総時間60時間以上) ・予習:ゼミ内での発表や発表会の資料作成のため, 最新の論文の購読, レジューメ作成を行ってください。 ・復習:ゼミや発表会で受けたコメントや答えられなかったことに対するリプライを作成し, 次回のゼミで発表してください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3015 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, コミュニティ心理学に関する研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 研究計画を作成し, 計画に基づいて調査・実験を実施すること。 2. 調査成果をまとめ, 報告すること。 |
| 評価方法 | 発表(30%)・討論(60%)・出席の状況(10%)を通して, 総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」および「臨床心理学特別演習Ⅱ」を履修した者を対象としたゼミです。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究方法の検討と実施1 2. M1研究計画発表会 3. 研究方法の検討と実施2 4. 中間発表会準備 5. M2第1回修士論文中間発表会 6. 中間発表会のコメントリプライの作成と研究計画・方法の修正 7. 研究方法の検討と実施3 8. 研究方法の検討と実施4 9. 研究方法の検討と実施5 10. 研究方法の検討と実施6 11. 研究方法の検討と実施7 12. 研究方法の検討と実施8 13. 研究方法の検討と実施9 14. M1第1回修士論文構想発表会 15. 研究方法の検討と実施10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | フィールドワーク, 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミや発表会でうけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究計画, 方法を立案し, 実行する</p> <p>(実践活動への参加) 自分の研究テーマやコミュニティ心理学について理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, 地域の当事者活動などコミュニティ心理学的地域貢献活動に積極的に参加する。</p> |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-------------|------|---------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3016 | 科目名 | 心理実践実習C | 単位数 | 4 |
| 担当者 | 三好 真人、谷渕 真也 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6120 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目では、大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次に掲げる事項について学びます。「①要支援者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成」、「②チームアプローチ」、「③多職種連携及び地域連携」、「④公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解」。保健医療分野の精神科デイケアにおいて事前事後指導を含めて180時間のケース担当実習を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 |
| 到達目標 | 1. 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につけている。 2. 多職種連携及び地域連携について理解し、チームの一員として参加できる。 3. 保健医療分野における「チーム医療」について理解している。 4. 要支援者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成を遂行できる。 5. 具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識及び技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。 |
| 評価方法 | 以下の3つの観点から、到達目標の達成度によって評価します。 事前事後学習への取り組み(30%)、討論への参加状況(20%)、実習記録ノートの内容(50%) なお、次の場合は評価の対象となりません。 (1)理由・連絡のない欠席、(2)理由なく実習記録ノート未提出(3)実習時間数・事前事後指導時間数の不足(4)マニュアルの記載に則った実習中止 |
| 備考 | 前期か後期の「心理実践実習C」のいずれか一つを履修してください。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を配布して使用します。 その他、必要に応じて資料を配布します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1. 精神科デイケアにおいてケース担当実習を行います(1回6時間、15回、計90時間)。 1か所の実習先につき1~2名の実習生がデイケアスタッフとしてケース担当実習を行います。詳細は「心理実践実習指導マニュアル」を参照してください。 2. 1の内容について事前事後指導を行います(1回3時間、30回、計90時間) 毎回の実習前後に事前指導(3時間)と事後指導(3時間)を行います。実習生は実習記録(事前事後指導用)を作成して実習担当教員の指導を受けてください。詳細は「心理実践実習指導マニュアル」を参照する。 作成した資料や時間記録簿は毎回「実習記録ノート」に保存してください。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 【実習】(予習)担当ケースに関する文献等を参考に事前準備をしてください。具体的な自己目標を設定してください。(復習)担当ケースの支援の記録を作成し実習を振り返り自己評価を行ってください。 【事前事後指導】(予習)事前事後指導用の実習記録を作成して指導の事前準備をしてください。(復習)指導の内容を振り返り、実習の予習に活かしてください。 計180時間以上 |

| | |
|------------|--------------------|
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 心理実践実習 |

| | | | | | |
|--------|---|------|---------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3017 | 科目名 | 心理実践実習D | 単位数 | 4 |
| 担当者 | 松高 由佳、大谷 哲朗、谷淵 真也、一円 禎紀、兒玉 憲一、佐々木 美保、神谷 真由美、佐藤 友哉、吉儀 瑠衣、三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期～後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6130 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 本科目では、大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次に掲げる事項について学びます。「①心理に関する支援を要する者等へのコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等に関する知識及び技能」、「②要支援者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成」、「③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解」。大学院附属心理相談センターにおいて事前事後指導を含めて180時間のケース担当実習を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 生育歴等の情報、行動観察及び心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈を行うことができる。 2. 心理面接や心理査定について、適切に記録、報告、振り返り等を行うことができる。 3. 具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識及び技術として体系立てることができる。 4. コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等に関する知識及び技能を有している。 5. 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につけている。 |
| 評価方法 | 以下の3つの観点から、到達目標の達成度によって評価します。 事前事後学習への取り組み(30%)、討論への参加状況(20%)、実習記録ノートの内容(50%) なお、次の場合は評価の対象となりません。 (1)理由・連絡のない欠席、(2)理由なく実習記録ノート未提出(3)実習時間数・事前事後指導時間数の不足(4)マニュアルの記載に則った実習中止 |
| 備考 | 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「心理実践実習の手引き」及び「実習記録ノート」を配布して使用します。 その他、必要に応じて資料を配布します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1. 心理相談センターにおいてケース担当実習を行います(1回3時間、30回、計90時間)。 心理面接や心理検査について1回3時間の実習を行います。詳細は「心理実践実習指導マニュアル」を参照してください。 2. 1の内容について事前事後指導を行います(1回3時間、30回、計90時間) 毎回の実習前後に事前事後指導(3時間)を行います。実習生は実習記録(事前事後指導用)を作成して実習担当教員の指導を受けてください。詳細は「心理実践実習の手引き」を参照してください。 作成した資料や時間記録簿は毎回「実習記録ノート」に保存してください。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 【実習】(予習)担当ケースに関する文献等を参考に事前準備をしてください。具体的な自己目標を設定してください。(復習)担当ケースの支援の記録を作成し実習を振り返り自己評価を行ってください。 【事前事後指導】(予習)事前事後指導用の実習記録を作成して指導の事前準備をしてください。(復習)指導の内容を振り返り、実習の予習に活かしてください。 計180時間以上 |

| | |
|------------|--------------------|
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 心理実践実習 |

| | | | | | |
|--------|--------------------------------|------|---------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3018 | 科目名 | 臨床心理実習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 一円 禎紀、佐々木 美保、松高 由佳、吉儀 瑠衣、三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期～後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6150 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 心理相談センターで病理のあまり重くない事例をスーパービジョンを受けながら担当することを通して、臨床心理学的な査定・処遇の技術の修得をめざします。同時に臨床家としての倫理の学習も行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | 基本的な知見をもとに、スーパービジョンを受けながら事例を受け持ち、臨床心理学的理解と支援を提供できるようになる。 |
| 評価方法 | カンファレンスや事例検討での発表(60%)や討論への参加状況(40%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 作成してきた発表資料に対して毎回その場でコメントを行い、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 発表者の資料を使います。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | (1)ケースカンファレンス(毎週1限) 心理相談センターで研修相談員の学生が担当しているケースに関するケースカンファレンスを行います。 (2)事例検討(毎週2限) 各自が担当している事例や事例論文などを発表し、討論します。その中で、心理面接を開始、継続、終了するときの留意点、心理面接・心理検査に関する記録や報告書の書き方、事例の定式化の方法など、心理臨床の実務について学びます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | プレゼンテーション、調査・実習、コメントペーパー、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | カンファレンスや事例検討の発表資料は事前に作成する必要があります。また、自分が行う心理面接・心理検査に関連する文献は必ず読んでおくことも大切です。少なくとも一日1時間、週に7時間は心理臨床に関する時間を確保し、研鑽を積んでいきましょう。 |

| | |
|------------|-------------|
| 免許・資格 | 臨床心理士試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 必修科目 臨床心理実習 |

| | | | | | |
|--------|---|------|---------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3019 | 科目名 | 心理相談実習B | 単位数 | 1 |
| 担当者 | 兒玉 憲一、大谷 哲朗、谷淵 真也、一円 禎紀、佐々木 美保、神谷 真由美、佐藤 友哉、松高 由佳、吉儀 瑠衣、三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期～後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6240 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目は、心理面接、心理査定に必要な基本的技法の実践力を身につけるための心理相談実習の一つです。「臨床心理実習」、「心理実践実習D」におけるケース担当実習を補完する形式で、心理相談センターにおける実習(ケース担当・カンファレンス・セミナー等)、事例検討等を行います。これまでに学んだ心理的支援及び心理査定の技術向上を目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 |
| 到達目標 | 1. 心理面接を実践する技術を身につけている。 2. 心理査定を実践する技術を身につけている。 3. 事例検討やカンファレンスで適切な発表・討議を行うことができる。 4. セミナー等を通じた啓発活動を行うための知識と技術を身につけている。 |
| 評価方法 | 実習への参加状況(50%)、カンファレンスや事例検討での発表(30%)、討議での発言状況(20%)を総合して評価します。 |
| 備考 | 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて教員から資料を配布します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 以下の実習を行います。 (1) 心理実践実習Dに含まれない時間の心理相談センターにおけるケース担当実習とその事前事後指導 (2) 臨床心理実習に含まれない時間の心理相談センターでのカンファレンス実習 (3) 心理相談セミナースタッフとして地域貢献活動の実習 (4) 広島五大学院事例検討会やセンター金曜会等、事例検討 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間、計30時間以上 それまでに作成した実習記録や関連の文献を読み、自分自身の課題の確認や担当ケースの実施計画の立案等の準備を行ってください。 (復習)各回2時間、計30時間以上 実習記録の作成や事前事後指導および事例検討等の振り返りを行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3020 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐々木 美保 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6270 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学(行動療法・認知行動療法)に関する研究の実践を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 研究計画を立案し、それに基づいた調査・実験を遂行することができる 2. 調査・実験の成果をまとめ、報告することができる |
| 評価方法 | 発表(研究の問題, 方法, 結果, 考察)の内容(50%)、受講態度(20%)および討議への関与状況(30%)を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」と「臨床心理学特別演習Ⅱ」を履修した学生を対象としたゼミです。作成してきたレジュメ(発表資料)に対して毎回その場でコメントを行い、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示をします。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 臨床心理学特別演習Ⅰ・Ⅱでの取り組みに加えて、調査・実験の結果についての報告と討論を行います。テーマによっては、更なる分析や報告書の作成等を行います。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 発見学習, 問題解決学習, グループディスカッション, 調査学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 研究・実践活動に必要な知識と技術を習得し高めるために、国内外の研究論文を主体的に講読してください。併せて多くの研究・実践活動に積極的に参加し、見識を広めることを期待します。また、発表時には懸案点を明確にして臨んでください。 ゼミの時間以外に、少なくとも一日の内5時間は研究活動に従事し、データ収集を行うとともに仮説に基づいた分析計画が立てられるようになっておく必要があります。 自学自習総時間120時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3021 | 科目名 | 心理療法特論 | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐々木 美保 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7G2-6300 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 本講義では心理療法の中でも行動療法／認知行動療法について学習します。認知行動療法では、問題となっている認知や行動を変容したり、より適応的な行動を獲得したりすることによって、セルフコントロール力を高めることを目指します。近年では、病院臨床に限らず、発達障がい児の療育、教育現場などでも幅広く適用されています。本講義では認知行動療法の基礎となる理論や具体的な介入技法についての理解を深めることを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 2 心理学の高度な専門的知識と技術をもって心理査定、心理面接を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 認知行動療法の基礎理論を正しく理解すること 2. 認知行動療法による問題の見立て、介入技法について事例を通して理解すること |
| 評価方法 | 授業への参加状況、討論への参加とその内容、発表資料やプレゼンテーションによって総合的に評価します。 |
| 備考 | 本講義では、心理療法の知識や理論が実際の症例では、心理学的理解にどのように反映されているのか、技法がどのように活用されるのか、といった「現場で役に立つ」実践家を育てるための学びの形式を重視します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「60のケースから学ぶ認知行動療法」(坂野雄二監修, 北大路書房)を中心に、認知行動療法による症例をピックアップし、検討していきます。必要な書籍は貸し出しますので、個人購入は不要です(もちろん、個人所有して学びを深めたい人は購入してください)。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回:オリエンテーション 第2回:認知行動療法の基礎 第3回:認知行動理論に基づく心理学的理解と介入方針の立て方① 第4回:認知行動理論に基づく心理学的理解と介入方針の立て方② 第5回:認知行動理論に基づく心理学的理解と介入方針の立て方③ 第6回:認知行動理論に基づく心理学的理解と介入方針の立て方④ 第7回:認知行動理論に基づく心理学的理解と介入方針の立て方⑤ 第8回:認知行動理論に基づく心理学的理解と介入方針の立て方⑥ 第9回:事例論文の発表① 第10回:事例論文の発表② 第11回:事例論文の発表③ 第12回:事例論文の発表④ 第13回:事例論文の発表⑤ 第14回:事例論文の発表⑥ 第15回:まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 事前学習として、学習心理学や認知心理学など、認知行動療法に関連する知識の予習・復習を行って本講義に臨むことを推奨します。テキストの担当箇所について事前学習を基にレジュメにまとめる作業を行うと共に、講義内のディスカッションで明らかになった自身の理解の不十分理解であったポイントについて、次回までに各自で復習を行っておきましょう。 |
| 免許・資格 | 臨床心理士 |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|--------------|------|---------|------|----|
| 時間割番号 | 7B3022 | 科目名 | 心理実践実習C | 単位数 | 4 |
| 担当者 | 神谷 真由美、佐藤 友哉 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 実習 |
| ナンバリング | 7G2-6120 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本科目では、大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次に掲げる事項について学びます。「①要支援者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成」、「②チームアプローチ」、「③多職種連携及び地域連携」、「④公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解」。保健医療分野の精神科デイケアにおいて事前事後指導を含めて180時間のケース担当実習を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 1 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力 |
| 到達目標 | 1. 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につけている。 2. 多職種連携及び地域連携について理解し、チームの一員として参加できる。 3. 保健医療分野における「チーム医療」について理解している。 4. 要支援者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成を遂行できる。 5. 具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識及び技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。 |
| 評価方法 | 以下の3つの観点から、到達目標の達成度によって評価します。 事前事後学習への取り組み(30%)、討論への参加状況(20%)、実習記録ノートの内容(50%) なお、次の場合は評価の対象となりません。 (1)理由・連絡のない欠席、(2)理由なく実習記録ノート未提出(3)実習時間数・事前事後指導時間数の不足(4)マニュアルの記載に則った実習中止 |
| 備考 | 前期か後期の「心理実践実習C」のいずれか一つを履修してください。 課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を配布して使用します。 その他、必要に応じて資料を配布します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1. 精神科デイケアにおいてケース担当実習を行います(1回6時間、15回、計90時間)。 1か所の実習先につき1~2名の実習生がデイケアスタッフとしてケース担当実習を行います。詳細は「心理実践実習指導マニュアル」を参照してください。 2. 1の内容について事前事後指導を行います(1回3時間、30回、計90時間) 毎回の実習前後に事前指導(3時間)と事後指導(3時間)を行います。実習生は実習記録(事前事後指導用)を作成して実習担当教員の指導を受けてください。詳細は「心理実践実習指導マニュアル」を参照する。 作成した資料や時間記録簿は毎回「実習記録ノート」に保存してください。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 【実習】(予習)担当ケースに関する文献等を参考に事前準備をしてください。具体的な自己目標を設定してください。(復習)担当ケースの支援の記録を作成し実習を振り返り自己評価を行ってください。 【事前事後指導】(予習)事前事後指導用の実習記録を作成して指導の事前準備をしてください。(復習)指導の内容を振り返り、実習の予習に活かしてください。 計180時間以上 |

| | |
|------------|--------------------|
| 免許・資格 | 公認心理師試験受験資格 |
| 免許・資格の科目区分 | 公認心理師試験受験資格 心理実践実習 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4001 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 兒玉 憲一 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文を完成させるため、臨床心理学やコミュニティ心理学に関する基礎的な研究指導をゼミ形式で行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | これまでの研究成果をまとめ、修士論文を完成させる。 |
| 評価方法 | 参加状況(30%)、発表討議(70%)を基に総合して評価します。 |
| 備考 | (1) 本科目は、授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」、「臨床心理学特別演習Ⅱ」、「臨床心理学特別演習829Ⅲ」を履修した者を対象としたゼミです。 (2) 課題(試験やレポート等)は、授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示しますが、受講生も積極的に各自の研究テーマに関する文献を検索講読してください。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 臨床心理学特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで行ったことに加え、修士論文のための研究の進捗状況の報告、修士論文本体、同要旨の執筆および発表に関する指導を行い、修士論文を完成させます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、調査、課題解決学習、プレゼンテーション、論文執筆 |
| 準備学習(予習・復習) | (1) 修士論文及び心理臨床活動に必要な知識と技能を習得するため、関連する学術論文等の文献の講読、ボランティア等の実践活動への参加を積極的に行ってください。 (2) 予習・復習は、各回2時間、計30時間行うこと。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4002 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 大谷 哲朗 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 実験・調査等で得られた結果を基として、適切に考察が進められているかどうかを検討していきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 実験・調査等の結果を基に、考察ができること。 |
| 評価方法 | 授業での発表(1/3)、討論への参加状況(1/3)、発表資料(1/3)によって評価します。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 実験・調査等の結果を適切に処理し、それらを基に適切に考察が進められているかどうかを検討していきます。問題、課題等が明らかになった場合には、さらに実験・調査等を行うことが求められます。また、並行して論文の書き方について演習を行います。15回の授業を通じて、毎回、発表資料を基に発表をしてもらいます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習，課題発見学習，課題解決学習，プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 心理学の研究を深めるためには、論文を多く読むことが役立ちます。「心理学研究」、「教育心理学研究」、「カウンセリング研究」、「実験社会心理学研究」などの雑誌にできるだけ多く目を通すようにしてください。 自学自習総時間60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4003 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 深田 成子 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 心理学の研究論文を決められた形式に沿って書けるような訓練を行います。そのためには先人の論文を読みこなし、必要な統計的手法によるデータ分析もできるようになり、それをきちんとまとめることができなくてはなりません。わかりやすい表記方法に工夫し、自分の研究を他者にきちんと伝えることができようになります。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学の研究を行う能力を身につける 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」とことに関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 問題、方法、結果、考察、引用文献など全てにわたって、心理学の論文がきちんと書けるようになることです。 |
| 評価方法 | レポート評価100%。課題は、心理学の論文の形式をきちんとふまえて論文作成ができ、それを他者にわかりやすく発表することができるようになることです。 到達目標と対応させ以下の点に注目して評価します。 1. 授業参加・授業中の態度 20% 2. 心理学の論文が書けるようになったか 40% 3. まとめた論文の発表資料・要旨が作成できるか 40% |
| 備考 | 1週間に2～3時間は論文を読む時間を作って何度も読んでください。授業の後30分は復習に当てましょう。また、質疑応答を行い、疑問を残さず解決していきましょう。予習・復習は各回2時間、計30時間以上行ってください。 |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1 : イントロダクション 2 : 研究1の問題の発表 4 : 研究1の方法の発表 5 : 研究1の結果の発表 6 : 研究1の考察の発表 7 : 研究2の問題の発表 8 : 研究2の方法の発表 9 : 研究2の結果の発表 10 : 研究2の考察の発表 11 : 全体の問題の発表 12 : 全体の考察の発表 13 : 修士論文要旨集原稿による発表1 14 : 修士論文要旨集原稿による発表2 15 : 修士論文発表会用パワーポイントの作成 水曜日の午前中(1年生と合同)に、2年生の修士論文発表会と1年生の中間発表会を行います。その日程は、9月オリエンテーションで知らせます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 心理学の知識をどれだけ持っているかが調査用紙作成や分析に影響します。時間の許す限り、心理学の知識を蓄え、自分の研究に関連する論文を読みましょう。週に5時間以上予習・復習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4004 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉田 弘司 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 前期の特別演習Ⅲに引き続き、臨床心理学において問題になるような心的事象に関連し、認知科学的なアプローチに基づいた高次脳機能に関する研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 研究を完成させます。 |
| 評価方法 | 発表(研究の問題、方法、結果、考察)の内容、討議への関与の状況、期末課題を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 原則として、授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」、「臨床心理学特別演習Ⅱ」および「臨床心理学特別演習Ⅲ」を履修した者を対象者とします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特にありません。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 学生個々のテーマに応じて授業内容を柔軟に変更するため、各回の授業計画はありません。実験によって得られたデータをもとに、科学的・実証的研究として研究を完成させていきます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 特別演習においては、授業時間外での準備や作業、実験実施、データ整理などが重要ですから、積極的に担当者とアポイントを取って進めていくようにしてください。なお、この授業に関する予習・復習の時間は各回あたり2時間、計30時間が基準となっています。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4005 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 伊藤 克浩 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | これまでの実験や調査の結果をまとめ、論文を完成させます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | ○論文を完成させること。 |
| 評価方法 | 総合的に評価する。 |
| 備考 | 発表等については、授業時間中にフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に使用しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 修士論文中間発表会準備1 第2回 修士論文中間発表会準備2 第3回 M2第2回修士論文中間発表会 第4回 中間発表会の振り返り 第5回 研究の発表と討論1 第6回 研究の発表と討論2 第7回 研究の発表と討論3 第8回 研究の発表と討論4 第9回 研究の発表と討論5 第10回 研究の発表と討論6 第11回 研究の発表と討論7 第12回 M1第2回修士論文構想発表会 第13回 修士論文発表会等の準備1 第14回 修士論文発表会等の準備2 第15回 修士論文発表会等の準備3 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 発表のための資料を、あらかじめ用意しておくこと。 発表後は、次に備えて新たな資料を読んでおくこと。 論文に書いたこと全てを発表することはできません。手際よくまとめる必要があります。 予習・復習は各回2時間、計30時間行うことになっていますが、論文執筆や発表のためには、それ以上の時間が必要となるでしょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4006 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 一円 禎紀 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 修士論文の研究計画に基づいて得られたデータを分析、考察し、論文を完成させることが本科目の目的です。各自が特別演習Ⅲで学んだやり方でデータを分析、考察したものを発表して討論することで、よりよいデータ整理の仕方や、研究目的、結果と整合する適切な考察を明確化していきます。最終的にはそれらすべてをまとめて論文として完成させます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 修士論文を完成させることが目標です。 |
| 評価方法 | 討論への参加状況(20%)や討論の内容(30%)、発表内容(50%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 各自の発表に対して毎回その場でコメントし、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 発表者の資料を使います。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 分析結果、考察を1人ずつ発表し、討論する中で、分析の仕方やプレゼンテーションの仕方を検討し、適切な考察を明確にしていきます。最終的には研究全体をまとめて論文を作成していきます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索、発表・討議、課題発見学習、調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | 各回4時間、合計60時間以上。 発表資料は事前に各自で準備します。 授業での討論に基づいて、研究目的から考察までをもう一度見直し、各自で論文を完成させます。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4007 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 松高 由佳 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 修士論文の研究計画に基づいて得られたデータを分析、考察し、論文を完成させることが本科目の目的です。各自が特別演習Ⅲで学んだやり方でデータを分析、考察したものを発表して討論することで、よりよいデータ整理の仕方や、研究目的、結果と整合する適切な考察を明確化していきます。最終的にはそれらすべてをまとめて論文として完成させます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 心理学を扱った修士論文を完成させることができる |
| 評価方法 | 課題への取組状況(40%)、発表内容(30%)、修士論文の内容(30%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | 各自の発表に対して毎回その場でコメントし、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 発表者の資料および関連文献を使います。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 分析結果、考察を1人ずつ発表し、討論する中で、分析の仕方やプレゼンテーションの仕方を検討し、適切な考察を明確にしていきます。最終的には研究全体をまとめて論文を作成していきます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索、発表・討議、課題発見学習、調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | 発表資料は事前に各自で準備します。 授業での討論に基づいて、研究目的から考察までをもう一度見直し、各自で論文を完成させます。 そのため、修士論文に取り組む時間を週に4時間以上は確保してください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4008 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 谷渕 真也 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, コミュニティ心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 研究成果をまとめ修士論文を執筆できる。 |
| 評価方法 | 参加状況(30%), 発表(50%), 討論(20%)を通して, 総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」～「臨床心理学特別演習Ⅲ」を履修した者を対象としたゼミです。課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文中間発表会の資料作成1 2. 修士論文中間発表会の資料作成2 3. M2第2回修士論文中間発表会 4. 修士論文中間発表会のコメントリプライの作成 5. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議1 6. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議2 7. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議3 8. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議4 9. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議5 10. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議6 11. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議7 12. M1第2回修士論文構想発表会 13. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議8 14. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議9 15. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミや発表会でうけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究報告を作成する</p> <p>(実践活動への参加) 自分の研究テーマやコミュニティ心理学について理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, 地域のボランティア活動などコミュニティ心理学的地域貢献活動に積極的に参加する</p> |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4009 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 塚脇 涼太 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「臨床社会心理学領域」の修士論文執筆、発表に向けての指導を行う。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は教育目標の「臨床心理学の理論及び技法について学ぶ」と関連しています。特に、人間の心理的な諸問題に対処できる実力を身につけます。 |
| 到達目標 | 1. 調査、実験実施のスキルを身につける。 2. データ解析スキル、ならびに発表スキルを身につける |
| 評価方法 | 参加状況、発表内容、討論への参加状況によって、総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題(試験やレポート等)は授業時間中かオフィスアワーを利用してフィードバックする。 |
| テキスト・教材・経費等 | 講読する文献、及び発表者の作成したレジュメを利用します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 研究状況についての報告、修士論文執筆指導を行います。分析、論文執筆についての指導が中心となるため、場合によっては時間外に指導が及ぶこともあります。さらに、報告の際には、受講生同士の活発な議論を行ってまいります。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 本授業では発表準備(予習)→発表→発表後の指摘を受けて、さらなる発表の準備(復習+予習)→発表という形になります。つまり、発表の準備をするための活動が予習・復習になります。 予習・復習は各回2時間、計30時間行うこと。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4010 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐々木 美保 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学(行動療法・認知行動療法)に関する研究の実践を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 3 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 研究成果をまとめ、修士論文として完成させることができる |
| 評価方法 | 発表(研究の問題、方法、結果、考察)の内容(50%)、受講態度(20%)および討議への関与状況(30%)を基に総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」、「臨床心理学特別演習Ⅱ」、「臨床心理学特別演習Ⅲ」を履修した学生を対象としたゼミです。 作成してきたレジュメ(発表資料)に対して毎回その場でコメントを行い、次回までのクリアすべき課題を伝えフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示をします。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 研究の成果についての報告を基に修士論文執筆の指導を行い、研究を完成させます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 発見学習、問題解決学習、グループディスカッション、調査学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 研究・実践活動に必要な知識と技術を習得し高めるために、国内外の研究論文を主体的に講読してください。併せて多くの研究・実践活動に積極的に参加し、見識を広めるとともに、自らの研究結果を情報発信し、心理学研究の視点からの社会貢献と義務を果たすことを期待します。 ゼミの時間以外に、少なくとも一日の内6時間は研究活動に従事し、データの解析を行うとともに、結果のまとめ、考察を行えるようになっておく必要があります。 自学自習総時間150時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4011 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 吉儀 瑠衣 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学に関する研究や投映法を用いた研究の基礎を学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 本科目は臨床心理学専攻のディプロマポリシーの「4 心理学についての研究を行う能力」と関連しています。 |
| 到達目標 | 研究成果をまとめ、修士論文として完成させることができる。 |
| 評価方法 | 発表と討論を通して、総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「心理学特別演習Ⅰ」、「心理学特別演習Ⅱ」、「心理学特別演習Ⅲ」を履修した者を対象者としたゼミです。 発表資料や課題へのフィードバックは、授業時間とオフィスアワーを用いて行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 研究の成果についての報告を基に修士論文執筆の指導を行い、研究を完成させます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実験、発表・討議、課題発見学習、問題解決学習、グループ学習 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)発表資料作成のために必要な研究論文や文献を講読し、レジュメを作成してください。 (復習)討議を通して得られたコメントや問題点を整理し、それを基に研究の遂行や次回の発表の準備をしてください。具体的には調査・実験の実施、調査データの整理や分析、必要な資料の収集、修士論文の執筆など。 予習・復習総時間:計60時間以上。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4012 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 神谷 真由美 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学, 発達臨床心理学に関する基礎的研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 研究成果をまとめ, 修士論文を完成させること。 |
| 評価方法 | 参加状況(40%) 討論での発言, 態度(30%) 発表内容(30%) |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「心理学特別演習Ⅰ」～「心理学特別演習Ⅲ」を履修した者を対象者としたゼミです。課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文中間発表会の資料作成1 2. 修士論文中間発表会の資料作成2 3. M2第2回修士論文中間発表会 4. 修士論文中間発表会のコメントリプライの作成 5. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議1 6. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議2 7. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議3 8. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議4 9. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議5 10. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議6 11. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議7 12. M1第2回修士論文構想発表会 13. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議8 14. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議9 15. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | (予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミや発表会でつけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究報告を作成する |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4013 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 佐藤 友哉 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 臨床心理学(主として認知行動療法)に関する研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 1. 学術論文(修士論文)を完成させることができる |
| 評価方法 | 出席, 発表および討論の取り組みを総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「心理学特別演習Ⅰ」「心理学特別演習Ⅱ」「心理学特別演習Ⅲ」を履修した学生を対象としたゼミです。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示をします。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 修士論文執筆の指導を行い研究を完成させます。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習, 課題解決学習, プレゼンテーション, 調査・実習 |
| 準備学習(予習・復習) | <ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業につき, 毎回4時間以上の予習・復習をすること(自学自習総時間60時間以上) ・予習: ゼミ内での発表や発表会の資料作成のため, 最新の論文の購読, レジューメ作成を行ってください。 ・復習: ゼミや発表会で受けたコメントや答えられなかったことに対するリプライを作成し, 次回のゼミで発表してください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7B4014 | 科目名 | 心理学特別演習Ⅳ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 三好 真人 | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7G2-6280 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 臨床心理学, コミュニティ心理学に関する研究を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 臨床心理学専攻のディプロマポリシー 4 心理学についての研究を行う能力 |
| 到達目標 | 研究成果をまとめ, 修士論文を完成させること。 |
| 評価方法 | 発表(60%)と討論(30%), 出席(10%)を通して, 総合的に評価します。 |
| 備考 | 本科目は授業担当者の「臨床心理学特別演習Ⅰ」～「臨床心理学特別演習Ⅲ」を履修した者を対象としたゼミです。課題のフィードバックは授業時間とオフィスアワーを活用して行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて適宜指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文中間発表会の資料作成1 2. 修士論文中間発表会の資料作成2 3. M2第2回修士論文中間発表会 4. 修士論文中間発表会のコメントリプライの作成 5. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議1 6. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議2 7. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議3 8. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議4 9. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議5 10. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議6 11. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議7 12. M1第2回修士論文構想発表会 13. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議8 14. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議9 15. 修士修士論文の方法, 結果, 考察に関する発表と討議10 <p>双方向性確保とアクティブラーニングのための方法 修士論文作成にかかるゼミの授業であるため, 積極的な討議参加やコメントリプライ作成等について指導する オフィスアワー, メールを活用して授業時間外の質問をうける</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 資料検索, グループ学習, 発表・討議, 課題発見学習, 調査・実験 |
| 準備学習(予習・復習) | <p>(予習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミ内での発表や発表会の資料作成に必要な論文・書物の検索と講読, レジュー作成を行う (復習)各回2時間, 合計30時間以上 ゼミや発表会でうけたコメントに対してリプライを作成し, コメントを反映した研究報告を作成する</p> <p>(実践活動への参加) 自分の研究テーマやコミュニティ心理学について理解を深め, フィールドの実態に即した研究を計画するため, 地域の当事者活動などコミュニティ心理学的地域貢献活動に積極的に参加する</p> |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |